

末日聖徒イエス・キリスト教会・2001年12月号

# リアホナ



# リアホナ



## 表紙

「星の現れ」マイケル・アルブレッチェン画  
挿入画——「キリストの降誕」の一部。カール・ヘンリック・ブロック画、デンマーク、ヒレズのフレズレクスホル城にある国立歴史美術館の厚意により掲載。



## 「フレンド」表紙

「客間には余地はない」ロバート・T・バレット画

36ページ参照



## 一般

- 2 大管長会メッセージ——贈り物のないクリスマス  
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 18 賢明に秩序正しく 十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル
- 28 末日聖徒の声——「よきおとずれ」  
霧の中から響いたクリスマスの鐘 ベス・デイリー  
ペルーのパパノエル ジョナサン・ブラウマン  
12日間のクリスマス ヤスナ・サンチェス  
真理への目覚め パスカル・オーコルディエ
- 33 家庭訪問メッセージ——神殿での礼拝によって得られる祝福
- 36 子どもに<sup>じゅうぶん</sup>什分の一を納めることを教える C・エルマー・ブラック・ジュニア
- 38 信仰によって歩むフィリピンの聖徒たち ロジャー・テリー
- 48 「リアホナ」2001年12月号の活用法
- 49 リアホナ2001年度索引

## 青少年

- 8 贖いの犠牲 末日の預言者の証<sup>あかし</sup>
- 24 ポスター——救い主への贈り物は何がよいでしょうか？
- 25 質疑応答——日常生活の中で、自分の心を常にキリストに集中させておくためには、どうすればよいでしょうか。
- 34 その星を探して リンディー・テラー

## フレンド

- 2 救い主のおくり物——  
大管長会から世界中の子どもたちへのクリスマスメッセージ
- 4 分かち合いの時間——何とうれしい日でしょう ダイアン・S・ニコルズ
- 6 テンプルスクウェアのクリスマス ロザリン・コリングス
- 8 クリスマスまであと何日？ ヒラリー・ヘンドリックス
- 10 クリスマスの工作——プレゼントの箱<sup>はこ</sup> キャシー・H・スティーブンス
- 11 新約聖書ものがたり——イエス、耳の聞こえない人をいやされる/  
キリストについてのしとたちのあかし
- 14 毎日がクリスマス 七十人名誉会員<sup>しちじゅうにんめいよかいじん</sup> F・エンツィオ・ブッシュ
- 16 「クリスマスまであと何日？」で使う切り絵<sup>きりえ</sup> ヒラリー・ヘンドリックス

## 付録

分かち合いの時間<sup>わかちあひのじかん</sup> ポスター——神殿——わたしがいつか行く所<sup>しんでん</sup>

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。  
アイスランド語、アムハラ語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

**大管長会:** ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

**十二使徒定員会:** ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

**編集長:** デニス・B・ノイエンス/バンダー

**顧問:** L・ライオネル・ケンドリック、菊地良彦、ジョン・M・マドセン

**教科課程管理部責任者**

実務部長: ロナルド・L・ナイトン  
企画・編集ディレクター: フライアン・K・ケリー  
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

**国際機関誌スタッフ**

編集主幹: マービン・K・ガードナー  
編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン  
編集副主幹: ロジャー・ティーン  
編集補佐: ジェニファー・グリーンウッド  
編集補助: スーザン・バレット  
出版補佐: コレット・ネッカー・オウン

**デザインスタッフ**

機関誌グラフィックスマネージャー: M・M・カワサキ  
アートディレクター: スコット・パン・カンベン  
デザイナー主任: シェリー・クック  
デザイナー: トーマス・S・チャールド  
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ  
制作: レジナルド・J・クリステンセン、カリ・A・カウチ、デニス・カービー、ケリー・プラット、ティナ・L・ジョンソン、クラウディア・E・ワナー  
デジタルプリプレス: ジェフ・マーティン

**予約購読スタッフ**

ディレクター: ケイ・W・ブリッグズ  
配送部長: クリス・クリステンセン

マーケティング部長: ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
半年予約1,200円(送料共)  
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月  
原題—International Magazines December, 2001. Japanese. 21992 300

**For Readers in the United States and Canada:**

December 2001 no.12. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

**POSTMASTER:** Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

## 読者からの便り



### 「これらの最も小さい者」

2000年12月号『リアホナ』(ポルトガル語版)の「これらの最も小さい者」を読んだとき、わたしはこの記事に載せられていた活動に感動しました。わたしも同じような活動を行っています。わたしの場合はイエス・キリストが地上でなさったように、子どもたちの福利を向上させる、つまり子どもたちが自分たちの価値を見だし、自立できるようにするための支援を行っています。「リアホナ」の記事の中でほかの人々の模範について読むと、自分ももっと助けたいという気持ちになります。

ブラジル・アマパー・マカパ地方部

パライス支部

クレオデス・セナ・マセド



### 宣教師の活動を称賛します

あなたがたの教会が世界中で宣教師の活動に専念しておられることを喜んでいきます。わたしはイタリアのカルボニアで二人の宣教師の友人になるというすばらしい機会を得ました。彼らが家族と離れていても、積極的な態度であることにとっても感動しました。

わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員ではありませんが、熱心に「リアホナ」(イタリア語版)を読んで

います。預言者であるゴードン・B・ヒンクレイ大管長と彼の二人の副管長を尊敬しています。宣教師たちが1999年4月に開かれた総大会のカセットテープをわたしの家に持って来てくれたので、わたしはとても興味深くその説教を聴きました。

真実の教会は一致の精神とほかの人々を受け入れることを勧めます。真実の教会は尊敬、親切、愛を説きます。わたしが出会った宣教師たちはこれらの特質を実際に示してくれました。イタリア、カルボニアの教会の友人 アンジェラ・プラト

編集部からのお願い—「リアホナ」についてのご意見、ご提案をお寄せください。また、「読者からの便り」への投稿、「質疑応答」のページに提起された質問に対する答え、信仰を鼓舞する経験談、福音の原則についての洞察に満ちた記事などもお待ちしております。あて先は以下のとおりです。Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA。Eメールの場合はCUR-Liahona-IMag@ldschurch.orgへお送りください。

皆さんからのご意見、ご提案を歓迎する一方で、「リアホナ」とは無関係の手紙やEメールもたくさん寄せられています。一例として、外国に住む会員との連絡の依頼、レッスンのための特別な資料の請求などが挙げられます。これらの要望に喜んでおこたえしたいところですが、「リアホナ」の制作に支障を来す恐れがあります。したがって、皆様からのご意見を「リアホナ」に関する内容だけにとどめてくださるようお願いいたします。資料探しやそのほかの事柄に関しては、地元の指導者からもっと適切な助けを受けることができます。



遊ぶことのできた贈り物は何もありませんでした。でも、見る  
ことができなくても感じるこ  
とのできたすばらしい贈り物がた  
くさんありました。

大管長会メッセージ

# 贈り物のない クリスマス



第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

人 生の中でクリスマスがこんなにすばらしいのはなぜでしょうか。わたしは年を重ねてきたので、たくさんのクリスマスを思い出します。すべてがすばらしいものでした。クリスマスをすばらしいものにするのは贈り物だけではないということを、わたしは学んできました。

## 子ども時代の最も幸せなクリスマス

わたしが幼いころ、家族はとても貧乏でした。父は仕事に就いていませんでした。ユタ大学のロースクール（訳注——合衆国における大学院レベルの法律家養成機関）に通っていたからです。父には妻であるわたしたちの母と3人の小さな息子がいました。祖父母は、彼らが住むミラード郡の農場にわたしたちの方で出向かないかぎりわたしたちにはクリスマスがないことを知っていました。それで、わたしたちの家族全員は列車でユタ州のソルトレークからリーミントンへ行きました。切符を買

ファウスト副管長の写真／ドン・フサス 絵／ポール・マン

うお金をどこで手に入れたのか、わたしにはまったく分かりません。

祖父とおじのエストラスが、リーミントンの鉄道の停車場でわたしたちを出迎えて、数頭の大きな馬が引く幌なしのそりで、深い雪の中をオーク・シティーまで連れて行ってくれました。その日はとても寒く、大きな馬のあごの毛は凍りつき、馬の吐く息が白く見えました。ジャック・フロスト（訳注——厳寒の擬人的表現）のおかげでわたしの鼻は凍り、ひどい寒さで息をするのも難しい状態でした。祖母は石を幾つか温めてそりの床に置き、暖を取れるようにしてくれていました。わたしたちは大きな野営用のキルトにくるまって、鼻先だけを出していました。馬具の革ひもに付いている鈴のリンリンという音に合わせ、わたしたちは歌を歌いながらリーミントンからオーク・シティーまで10マイル（約16キロ）以上の旅をしました。オーク・シティーには愛する祖父母が住んでいたのです。ほかに懐かしい人々もたくさんいたので、わたしたちは到着を待ち切れない思いでした。到着すると、温かい、すばらしい、胸躍る歓迎を受けました。

居間の片隅にクリスマスツリーが置かれていました。そのヒマラヤ杉は山腹の牧場から切り出してきたものでした。その木にはすでに大自然の飾り付けである小さな実が付いていて、強い香りを放っていました。わたしたちはポップコーンに針で糸を通してひも状にした飾りを付けました。それは、切れるとポップコーンが床一面に散らばってしまうので、そっと飾ったものです。

また、シアーズ・アンド・モントゴメリー・ワード（訳注——合衆国の、よく知られていたデパート）の古いカタログを切って、小麦粉ののりですなぎ合わせて作った紙の鎖もそのツリーに付けました。そのねばねばした小麦粉ののりは、手や顔や服のあちこちにくっつきました。わたしは、なぜその中に砂糖が入っていないのかと思ったものです。クリームを入れると、オートミールになったことでしょう。

ツリーの下に贈り物があつたかどうかは覚えていません。ツリーの下には、自家製の濃い糖蜜とうみつで作ったポップコーンボールが幾つも置かれていました。ポップコーンボールをかんでみると、その味はとても濃く、いつまでも口に残る感じがしました。

クリスマスイブに、わたしたちは全員、まきストーブを囲み、火の暖かさがもたらす慰めと、燃える杉の木が発する心地よい香りを楽しみました。おじの一人が開会の祈りをし、わたしたちはクリスマスキャロルと賛美歌を歌いました。おばの一人がイエスの降誕や「大きな喜

び〔の良きおとずれ〕」（ルカ2：10）の話を読みました。「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主すくいぬしがお生まれになった。このかたこそ主なるキリストである。」（ルカ2：11）その後、祖父母はわたしたちに、二人がどれほどわたしたちを愛しているかを話してくれました。

翌日はクリスマスで、すてきな夕食をしました。でも、食べる前に全員でひざまずき、家族の祈りをしました。わたしはとてもおなかがすいていました。でも、祖父はとても長い祈りをしました。祖父には祈ることがたくさんあったのです。その地域で干ばつがあり、収穫が乏しかったので、祖父は雨を祈り求めました。秋には干からびた大地に種をまいていました。収穫したものは大恐慌で価格が下がっていたので、売ってもあまりお金にはなりません。また、農場の税金を滞納していました。納めるお金がなかったからです。祖父はわたしたちの大家族、祖父の牛や馬、豚、鶏、七面鳥についても祈りました。すべてのものについて、祖父は祈りました。

祖父の長い祈りの間、いちばん年下のおじはじっとしていられずに、非礼にもわたしをつねりました。わたしが叫び声を上げればおもしろいと思ってのことでした。

夕食にはおいしい詰め物をしたとても大きな七面鳥が出ました。その詰め物にはセロリは入っていませんでした。農場で作ることのできた材料だけでした。しかし、パンやセージ、ソーセージ、玉ねぎがたくさん入っていました。じゃがいもやグレービーソース、ピクルス、ビート、豆、とうもろこしがたくさんありました。祖父は小麦を製粉所で小麦粉と交換できたので、いつも新鮮なパンを焼くことができました。食べ物が皆に十分に行き渡るように、わたしたちは、パンを一口食べたならばかの食べ物を一口食べるように、と言われました。チョコクチェリーのゼリーとグラウンドチェリーのジャムがありました。デザートとして、かぼちゃとスグリのパイもありました。どれもすべておいしいものでした。

### 贈り物の交換

それ以来、あの特別なクリスマスを思い出すとき、いちばん記憶に残っているのは、贈り物について考えなかったということです。手作りの手袋か、あるいはえり巻きをもらったかもしれませんが、贈り物のことは何も思い出せません。贈り物はすばらしいのですが、わたしたちの幸せに不可欠なものではないことが分かりました。あのときほど幸せだったことはありません。もらって大切に、遊ぶことのできた贈り物は何もありませんでした。でも、見ることができなくても感じることのできる



ほんとうの贈り物は自分自身なのかもしれません。心と意思の豊かさを分かち合うことです。つまり、店で買った贈り物よりももっと長続きし、はるかに偉大な価値のあるものを分かち合うことです。

すばらしい贈り物がたくさんありました。

限りない愛の贈り物がありました。わたしたちは神から愛されていることを知っていました。わたしたちは皆、互いに愛し合っていました。贈り物がないことを悲しくは思いませんでした。わたしたち全員に、こうしたすばらしい贈り物があったからです。自分たちが永続するあらゆるものに囲まれて存在し、その一部であるという思いは、すばらしい、確固とした気持ちを感じさせてくれました。わたしはほかのものを何も欲しいと思いませんでした。贈り物がないことを決して悲しく思いませんでした。わたしは子ども時代のクリスマス以上に幸せなクリスマスを思い出すことができません。

わたしたちは皆、贈り物の交換を楽しみます。しかし、物質的な贈り物と心を感じる贈り物には違いがあります。ほんとうの贈り物は自分自身なのかもしれません。心と意思の豊かさを分かち合うことです。つまり、店で買った贈り物よりももっと長続きし、はるかに偉大な価値のあるものを分かち合うことです。

もちろん、最もすばらしい贈り物の中に、愛の贈り物があります。わたしが聖なる使徒職に召されたとき、スペンサー・W・キンボール大管長（1895-1985年）は、わたしの頬に接吻してくれました。大管長のひげがわたしに触れたとき、幼い子ども時代のすばらしい思い出が

次々によみがえってきました。祖父のがっかりとした腕に抱えられたこと、また祖父がわたしの頬に接吻したときに祖父のひげが触れたことを思い出したのです。

ディケンズの著作『クリスマス・キャロル』の中のエビニーザ・スクルージのように、ある人々には、利己心のために、だれかを、また自分自身さえも愛するのが難しいときがあります。愛は、受けるよりも与えるよう促します。ほかの人々への慈愛と哀れみは、過剰な自己愛に打ち勝つ一つの方法です。

わたしたちが降誕をお祝いする、その御方が告げておられるように、すべての律法と預言者は神と同胞を愛することの中に包含されます。ヤコブはこのことを「きわめて尊い律法」と呼んでいます（ヤコブの手紙2：8）。使徒パウロは、「人知をはるかに越えた神の愛を知って」と述べています（エペソ3：19）。また、ヨハネの第一の手紙では次のように述べられています。「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。」（1ヨハネ4：7）

その昔、博士たちがはるか遠くから幼子イエスに贈り物を携えてやって来ました。わたしたちも直接、救い主に贈り物をすることができたら、このクリスマスはすばらしいものとなるのではないのでしょうか。そうすること

ができる、わたしは信じています。イエスは言われました。

「人の子が栄光の中にすべての御使<sup>みつかい</sup>たちを従えて来る時、彼はその栄光の座につくであろう。……」

そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国<sup>みくに</sup>を受けつぎなさい。

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』

そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、「主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』」(マタイ25:31, 34-40)

### ほんとうの贈り物

そのように、病気の人を助け、着る物のない人に衣服を与え、見知らぬ人の世話をするとき、わたしたちは直接、救い主に贈り物をしていることとなります。

わたしが前にお話ししたあの子ども時代のクリスマスで家族が分かち合った幾つかの贈り物は、このほんとうの贈り物でした。それは、平和の贈り物、愛の贈り物、奉仕の贈り物、自分自身の贈り物、信仰の贈り物です。

わたしたちは皆、神からすばらしい贈り物である賜物<sup>たまもの</sup>を頂いています。それを伸ばせば、ほかの人々を喜ばせることができます。このクリスマスの時期に、非常に多くの人々がヘンデルやディケンス、その他多くの人々の音楽と文学の賜物を享受してきました。これらの天与の賜物を分かち合うと、与える人も受ける人も祝福にあずかります。

所持することができなくても心に感じることでできる数々の贈り物を分かち合い、楽しむことによって、このクリスマス、またすべてのクリスマスはより豊かなものとなるでしょう。

何年も前のこと、わたしはニックという名の若者とその姉ミッチェルに祝福を授けるため病院へ行きました。

ニックはわたしの友人で、前にホームティーチングの同僚でした。彼の若い命は腎臓病のために危うい状態でした。ニックは長い間快復しませんでした。ニックの姉ミッチェルは彼の命を守るために貴い贈り物をするにしました。彼女自身の腎臓を一つ上げようとしたのです。

手術は成功しましたが、ニックの体がミッチェルからの貴い贈り物を受け入れるかどうかはまだ分かりませんでした。ミッチェルは、受け入れられるかどうか分からないままにその贈り物をしたのです。しかし、幸いなことに大丈夫でした。同じように、わたしたちの天の御父は、受け入れられるかどうか分からない非常に多くのすばらしい贈り物を与えてくださっています。御父の平安、御父の慰め、御父の愛を与えようとしてくださっています。わたしたちが御父の贈り物を受け入れるために行わなければならないのは、御父に従順であり、御父に従うことです。

わたしたちは個人としても集団としても非常に多くの問題に直面します。しかし、わたしは、たとえ全員でないとしても多くの人が、ガラテヤ人にあてられたパウロの偉大なメッセージから適切な展望を持つことができるという素朴な信仰を持っています。「キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」(ガラテヤ2:20)

1年を通じて応用できるクリスマスの時期のメッセージは、この世の贈り物や宝を受け取るのではなく、利己心や欲望を捨てること、またその状態を保つこと、御霊<sup>みたま</sup>の賜物を求め享受することの中に見いだされます。パウロは、御霊の賜物は「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない」と述べています(ガラテヤ5:22-23)。

このような賜物があれば、昔、贈り物をもらうこともそれで遊ぶこともなかったあのすばらしいクリスマス<sup>の</sup>ときにわたしが感じたように、すべての人が同じ気持ちを感じることでしょう。わたしは部屋いっぱいのおもちゃを持っているこの世の王子のようにになりたいとは思いませんでした。愛、平和、奉仕、自分自身、信仰の贈り物を惜しみなく与えられたことによって、十分に満たされた気持ちを感じたからです。また、そのような愛ある人々の一人として数えられるには特別な人でなければならない、と感じました。手で扱えるものや手で触れられるものではなく、心でのみ感じられるこれらのすばらしい贈り物以上のものを、わたしは何も望みませんでした。



今年のクリスマス、また  
いつのクリスマスでも最も大い  
なる贈り物は、<sup>あがな</sup>贖い主であり神  
の御子であるイエスの<sup>しよくざい</sup>贖罪です。



クリスマスの2日前に、わたしたちは、信仰の偉大さにおいてほかに類を見ない人物である預言者ジョセフ・スミス（教義と聖約135：3参照）の誕生日も祝います。父なる神とその御子イエス・キリストの訪れ、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠、神権、完全な回復の<sup>かぎ</sup>鍵についての知識を、わたしたちはジョセフに負っています。

イエスの特別な証人の一人として、また神が預言者ジョセフ・スミスを通じて地上に回復された福音に対する証人の一人として、わたしは<sup>あかし</sup>証します。今年のクリスマスの、またいつのクリスマスでも最も大いなる<sup>しよくざい</sup>贈り物は、贖い主であり神の御子であるイエスの贖罪です。これは「無料の賜物」とであると、（欽定訳ローマ5：15より和訳）、パウロは述べました。それは扱うことも触れることもできない贈り物ですが、わたしたちはそれを与えてくださる御方の計り知れない愛を感じることができるのです。

この贈り物によって、わたしたちは皆、永遠の命に至る道を見いだせるのです。主についてのわたしの神聖な証と同じように、このことについてのわたしの証は確かです、心からのもので、絶対的なものです。この特別なクリスマスの時期、神の祝福がわたしたち全員にあるよう願っています。□

#### ホームティーチャーへの提案

1. 物質的な贈り物と心を感じる贈り物には違いがあります。ほんとうの贈り物は自分自身なのかもしれません。それは、心と思いの豊かさから来るものです。
2. 天の御父は多くのすばらしい贈り物、すなわち平和の贈り物、愛の贈り物、奉仕の贈り物、自分自身の贈り物、信仰の贈り物をわたしたちに与えてくださいます。
3. とりわけ、御父は御子という贈り物を与えてくださいました。
4. 1年を通して応用できるクリスマスの時期のメッセージは、この世の贈り物や宝を受け取るのではなく、利己心や欲望を捨てること、またその状態を保つこと、生活の中で御霊の賜物を求め享受することの中に見いだされます。

あがな

# 贖いの 犠 牲

あかし  
末日の預言者の証

# 復

活祭がなければクリスマスもありません。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように説明しています。「ゲツセマネとカルバリで贖いの業を行われたキリストがおられず、勝利と復活の出来事がなければ、ベツレヘムのみどりごイエスはほかの赤ん坊と何も変わらなかったでしょう。」(「クリスマスのすばらしい、ほんとうの話」『リアホナ』2000年12月号, 6)

イエス・キリストが贖いの業をなされたという偉大な事実は福音の中核を成しています。このため、救い主の誕生と死はわたしたちにとって非常に大きな意味があるのです。ジョセフ・スミスからゴードン・B・ヒンクレーに至るまで現代の神権時代の預言者たちは、救い主の犠牲に重大な意味があることについて教えています。その一部を以下に紹介します。



## ジョセフ・スミス (1805-44年)

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘

となる』と。」(教義と聖約76:22-24)

## ブリガム・ヤング (1801-77年)

「末日聖徒は御父の〔肉における〕独り子であるイエス・キリストを信じています。イエスは時の中間にやって来てその業を行われ、御自身の命をささげることによって人の原罪による罰を受け、債務を弁済されました。そして復活し、御父のもとに昇られるのです。イエスはあらゆるもの下に身を落とされたので、あらゆるもの上に昇られるのです。わたしたちはイエス・キリストが再び来られると信じています。……

……人類家族の救いのために主がおできになることで、主の方でないがしろにされたものは何もありません。真理を受け入れるか拒否するかは人の子らにゆだねられています。救いのためになし得ることは、人の子らが行うべきことを除いてすべて救い主により、また救い主の業の中で達成されました。……今や主は王の王であり、主の



「ゲツセマネとカルバリで  
贖いの業を行われた  
キリストがおられず、  
勝利の復活の出来事が  
なければ、  
ベツレヘムのみどりこ  
イエスはほかの赤ん坊と何も  
変わらなかったでしょう。」

ゴードン・B・  
ヒンクレー大管長



ジョセフ・スミス

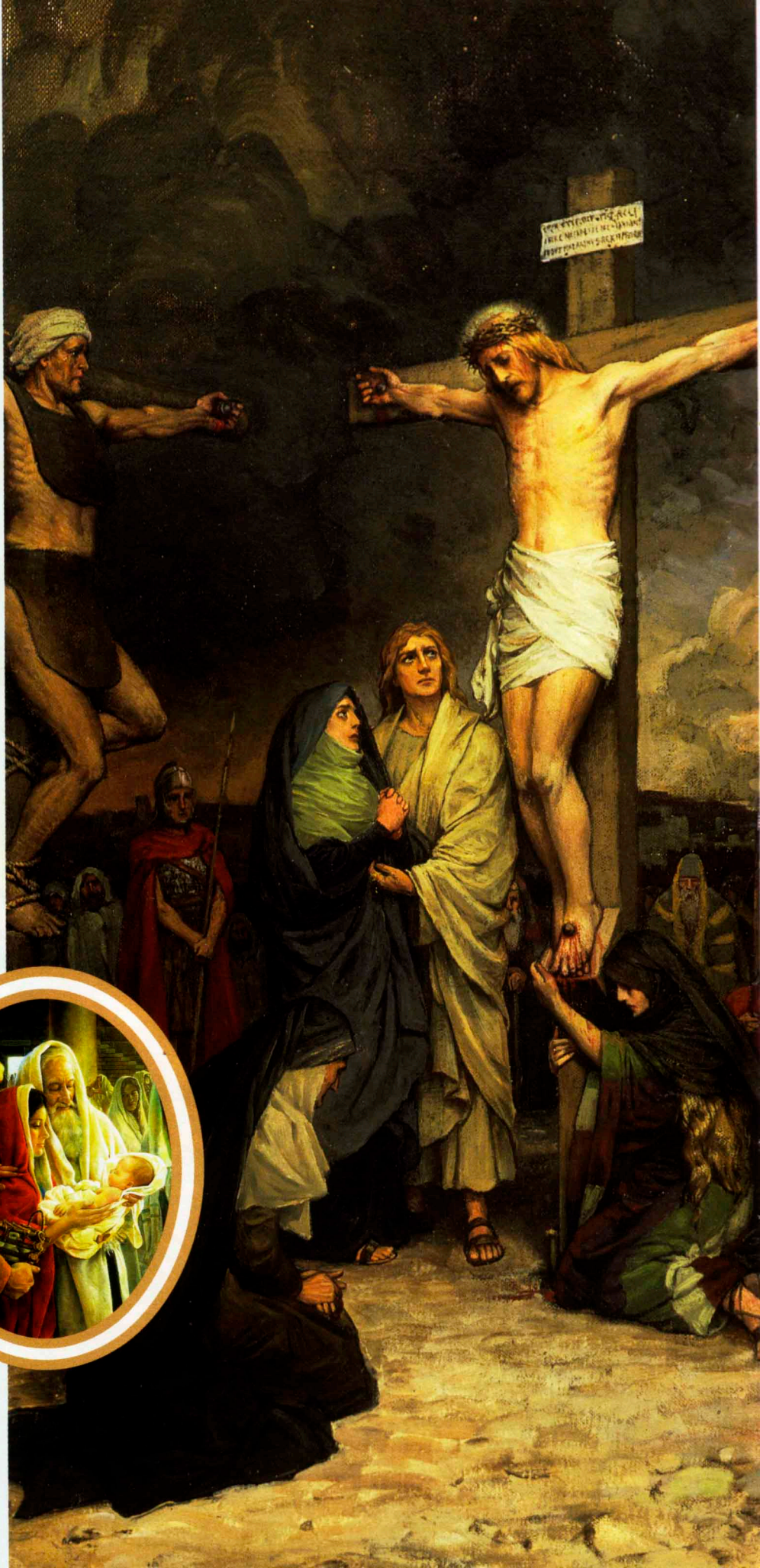


ブリガム・ヤング

主です。そしてすべてのひざがかがみ、すべての舌が〔モーサヤ27：31参照〕父なる神に栄光を帰し、イエスがキリストであると告白する〔ピリピ2：10-11参照〕時が来るのです。救い主としてではなく、<sup>けいべつ</sup>軽蔑とあざけりに遭い、二人の強盗の間ではりつけにされた無法者と見なされていたその人が、救いを得させてくださる唯一の御方として全人類から迎えられるのです。』（『歴代大管長の教え—ブリガム・ヤング』33-35）

#### ジョン・テラー（1808-87年）

〔「ニーファイ第二書第9章7節で」<sup>しょうがい</sup>贖罪は無限の贖罪でなければならないと告げられています。なぜ無限の贖罪でなければならないのでしょくか。それは単に川の流れが源泉よりも高く上ることはできないと同様です。肉体を得て、地にかかわるものとなったことにより、また律法を破って御父の前から遠ざけられたことにより、人は死に支配される者となっています。人はこの状態に置かれ地上で短い生涯を過ごします。そのような中で、人には、自らに益をもたらす、またはその状態から自分を引き上げる望み、あるいは<sup>あがな</sup>堕落した状態から自分を贖う、つまり御父の前に自分を連れ戻す望みがなかったために、低く卑しい地位から引き上げてくださる特別な力を必要としました。この特別な力こそ、人間のように御父の律法を破ることがなく、御父と一つであって、御父の栄光と力と権能と支配





を持つ神の御子だったのです。」(The Mediation and Atonement [1882年] 145)

### ウィルフォード・ウッドラフ (1807-98年)

「人が罪を悔い改めるよう求められるとき、それはアダムの背きではなく、その人自身の罪を指しています。いわゆる原罪は、人がどのような行いをするかにかかわらず、キリストの死によって贖われました。さらに、個人の罪も同じ犠牲によって贖われましたが、救いに関する福音の計画を告げられたときに、それに従うことを条件としています。」(Millennial Star, 1889年10月21日付, 659)

### ロレンゾ・スノー (1814-1901年)

「神の御子イエスは、……偉大な犠牲を払わなければなりません。御父から求められたことを成し遂げるには、御自分の持つすべての力と、注ぎ出すことのできるすべての信仰を要求されました。もしイエスが御自分の務めを果たし得られなかったとしたら、わたしたちはどうなっていたと思いますか。……しかしイエスは、滴るほどに血を流す過酷な試練を受けたにもかかわらず、使命を果たされました。……『わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください』というイエスの思いは変わりませんでした。それはイエスにとって困難な時でした。主に仕えるあらゆる男女は、どれほど忠実な人であっても、それぞれ困難な時を迎えます。けれども、忠実な生活

を続けていれば、彼らのうえに光が輝き、慰めが与えられることでしょ。……

……主はわたしたちに対して何ができるかを理解されるときまで、試しを与えると心に決めておられます。御父は御子イエスを試されました。御父は、御子が地上に來られる数千年も前から御子の行動を御覧になって、世の救いが危機に瀕したときに御子に託せることを御存じでした。そして、御父の期待は裏切られませんでした。」(Millennial Star, 1899年8月24日付, 531-532)

### ジョセフ・F・スミス (1838-1918年)

「わたしたちが地上に存在する目的は、完全な喜びを得ることです。文字どおり完全な意味での神の息子、娘、神の相続人、イエス・キリストと共同の相続人、神の王となり祭司となり、栄光と支配、昇栄、王位、そして父が持つおられるすべての力と属性を受け継ぐことです。これがわたしたちの地上にいる目的です。このいと高き位を得るためには、肉体的経験もしくは試しの時期を通して、わたしたちは長兄であるイエスの助けを借り、自らがそれにふさわしいことを証明しなければなりません。

人は義にかなって初めて救われ、神の王国で昇栄することができます。したがって、わたしたちは罪を悔い改め、キリストが光の中を歩まれたように、光の中を歩まなくてはなりません。キリストの血によってわたしたちがすべての罪から洗い清められ、神との交わりを持ち、神の栄光と昇栄を受けるためです。」(『歴代大管長の教え—ジョセフ・F・スミス』100-101)



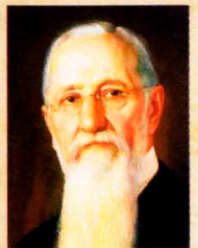
ジョン・テラー



ウィルフォード・ウッドラフ



ロレンゾ・スノー



ジョセフ・F・スミス



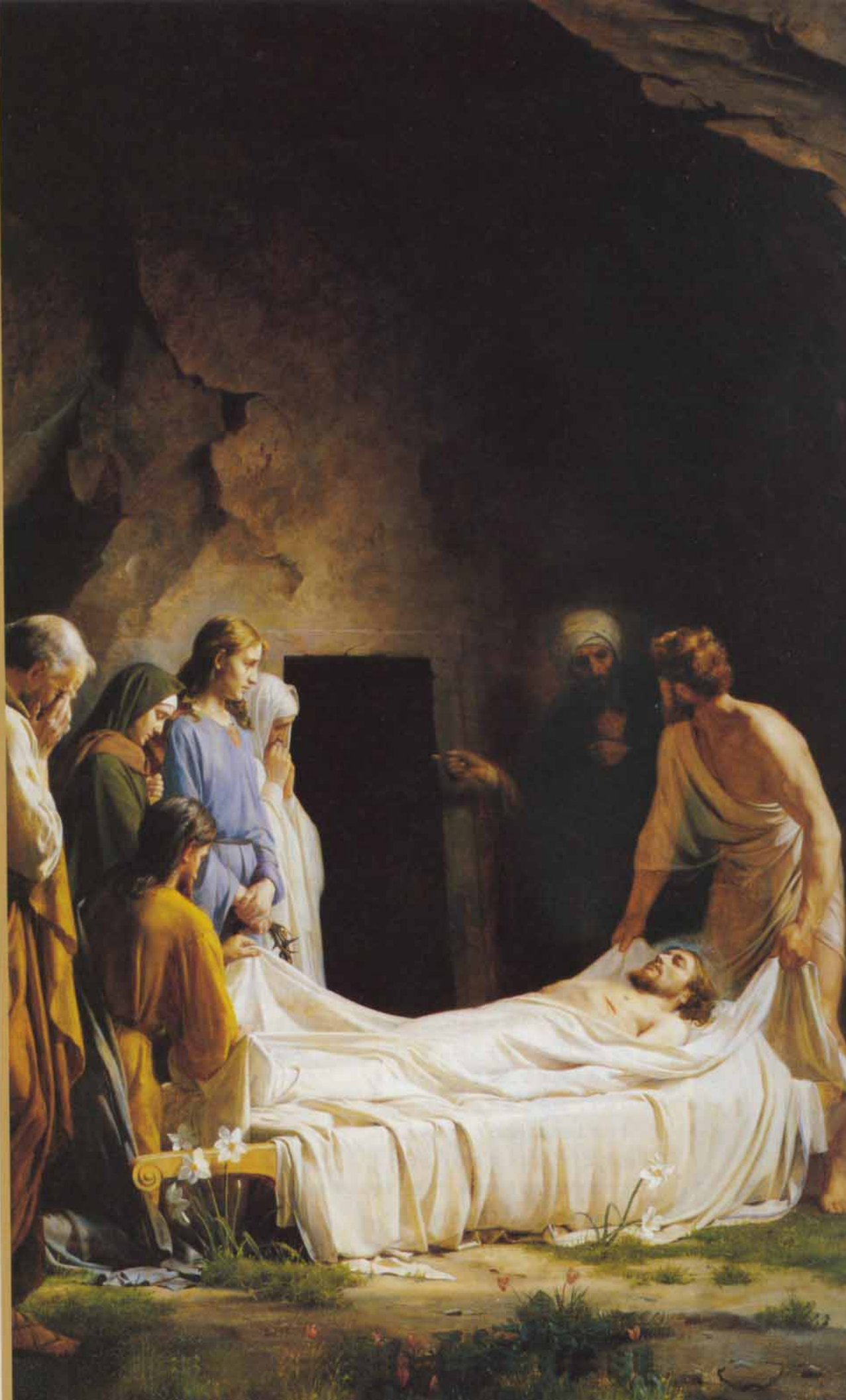
ヒーバー・J・グラント



ジョージ・アルバート・スミス



デビッド・O・マッケイ



## ヒーバー・J・グラント (1856-1945年)

『わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じます。』

言葉を換えると、わたしたちは、人が死を迎えるとき、単に自らの信仰を告白するだけでその人が救われるとは信じていません。

『わたしたちは、福音の第一の原則と儀式とは、第一に主イエス・キリストを信じる信仰……であることを信じます。そして、『主イエス・キリストを信じる信仰』という言葉に口にするとき、それが次のような事柄を表すことを明確に理解していただけるように望んでいます。それは、イエス・キリストが存在し、イエス・キリストが神の御子であり、人類の贖い主として十字架で死を迎えるという神からの使命を帯びて実際に地上にいられたことをわたしたちが完全に信じることなのです。わたしたちはイエス・キリストが単なる『道徳を教える偉大な教師』であるとは信じていません。イエス・キリストがわたしたちの贖い主であられると信じているのです。』(“Articles of Faith Explained,” *Deseret News*, 1938年9月3日付, 7)

## ジョージ・アルバート・スミス (1870-1951年)

「わたしは心の中で熱く燃える知識を与えてくださった〔天の御父に〕感謝しています。わたしは天の御父が生きておられ、イエス・キリストが人類



の救い主であられ、主イエス・キリストの御名のほかに男女が昇栄できる名は天下に与えられていないことを知っています。主はこの末日に地上にいられたこと、真理を探し求めていた一介の少年に神聖な権能を授けられたこと、その結果としてわたしたちが属している教会が組織されたこと、そして、教会には信じるすべての者に救いを与える神の力があることをはっきりと知っています。わたしはこのことを、わたしが生きていることを知っていると、同様に確かに知っていることを証します。」(Conference Report, 1927年10月, 50)

## デビッド・O・マッケイ (1873-1970年)

「地上の歴史の中間において、人の子は降臨して、世の習いとは対極にある永遠の真理、すなわち自分の命を救おうと思う者はそれを失うと宣言されました。……

主は不完全な生活をしている人々が完全な生活を営むよう助けるために、無私の奉仕に彩られた生涯を送られました。その不完全な生活が目や耳の不自由などの肉体的障害によって与えられたのであれ、罪のために引き出された女のように道徳的な弱さによって生じたのであれ、そのような人々に命を与えることが主の使命でした。……

したがって、キリストはその生涯と

死によって、犠牲の律法を満たされただけでなく、人がこの世の命から永遠の命へと至る、すなわち進歩するために知る必要のある、考えられる限りの条件に従われました。『そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう。』(ヨハネ12:32)

わたしはこの中に、あらゆる人を墮落から贖うという理由に加えて、キリストが血を流された理由を、非常に漠然とながらもかいま見たと思っています。主が命において隣人のために生き、死においてこの世のあらゆる要素、そして死の力と悪魔に対して勝利を収め、墓からよみがえって、永遠なる御方すなわちわたしたちの導き主、救い主、神となられたことをわたしが知ったのは、少なからず後者の理由によるものであると考えています。」(“The Atonement,” *Instructor*, 1959年3月号, 66)

## ジョセフ・フィールディング・スミス (1876-1972年)

「イエスは確かに世に降臨し世のために身代金を払われた。イエスの贖いによりわたしたちは死と地獄から買い取られた。死と地獄に対する代価は完全に支払われた。この負債を支払うことができたのは、キリストだけであった。……

……キリストはまさにこのとおりのことをされた。わたしにもあなたがたにも分からないある方法で世のすべての罪という重荷を負われた。わたしが自分の罪の重荷を負うことはできない



ジョセフ・フィールディング・スミス



ハロルド・B・リー



スペンサー・W・キンボール

し、あなたがたもそれぞれ自分の罪を負うことはできない。わたしたちの中に完全な者はいない。わたしたちは皆例外なく、してはならないことをしている。そしてそういったことをするとあまりいい気持ちがないで悩む。わたしは人々が罪のために苦悩の中にあえぎ、苦悶くもんするのを見てきた。罪のために、それもたった一人の罪のために苦しみ泣くのを見てきた。イエス・キリストが全人類の罪の重荷を肉体面だけでなく、霊的面と精神面においても負われたとき、どのような苦痛を味わわれたかをあなたは理解できるだろうか。

……御父と御子が人類に対して大きな愛を抱いておられるからこそ、死すべき体を持つ人にはおよそ耐えることのできないこの極限の苦しみを耐えられたことも理解できる。……

わたしたちは決して負債を支払うことができないであろう。わたしたちの心は主の大きな優しい慈悲に対する感謝の念と従順に従う気持ちであふれていなければならない。主が達成され

たことを見落としてはならない。」(『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻, 第1巻, 121, 125, 127)

### ハロルド・B・リー (1899-1973年)

「主は御自分が受けられた苦難に対する代償としてわたしたちに支払うよう望んでおられる唯一の事柄は、自分の罪を悔い改めて、主の戒めを守ることです。主が受けられた苦しみは非常に激しいものであったため、神の御子でさえも『苦痛のためにおのき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのもので〔した。〕そして〔御子〕は、その

苦い杯さかずきを飲まずに身を引くことができればそうしたいと思』われました(教義と聖約19:18)。しかし、主は……地球が終わりを迎える時に、御自身の死をもって招き寄せておられる人類が、人に救いをもたらす神の計画である福音を受け入れることによって、永遠の命を得、永遠に主の息子娘となるのであれば、その苦しみに価値があると考えておられるのです。」(Youth and the Church [1945年] 117-118)

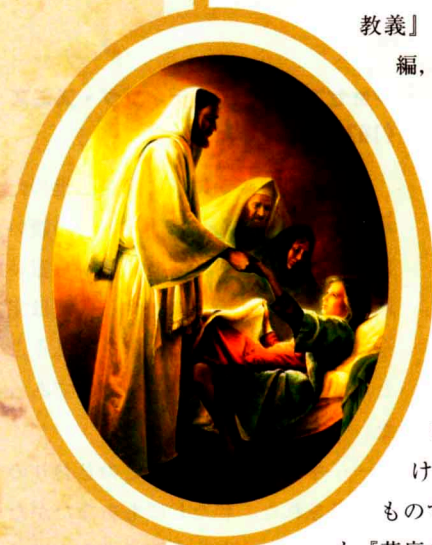
### スペンサー・W・キンボール (1895-1985年)

「主イエス・キリストの大きな犠牲と主がわたしたちのために受けられた苦しみについて考えるとき、もしわたしたちがそのことを自分の力の及ぶかぎりはっきりと正しく認識しなければ、わたしたちは主に対して恩知らずになってしまうであろう。主はわたしたちのために苦しみ、死なれた。しかし、わたしたちが悔い改めなければ、わたしたちのために受けられた苦悶も痛みも無意味なものになってしまう。……

罪の赦しは、神が人に与えられた最も輝かしい原則の一つである。悔い改めが神聖な原則であるように、赦しゆるもそうである。この原則がなければ、悔い改めを求める根拠がないことになる。しかし、この原則があるおかげで、すべての人に対して神聖な呼びかけが行われているのである。すなわち罪を悔い改め、赦しを受けなさい、と。」(『赦しの奇跡』155, 371)

### エズラ・タフト・ベンソン (1899-1994年)

「イエス・キリストは神、まさしく神の御子でした。だからこそ、ほかの人々の罪の重荷を背負うことがおできになったのです。イザヤは、救い主が自ら進んでこのような犠牲を払われることを次のような言葉で預言しました。『まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをなされた。……



左端 上より 肖像画/シャウチ・クリンガー、デビッド・アーンズワリック、ジュディス・メア。左「ヤイロの娘をよみがえらせられるキリスト」アレック・K・オルセン画  
右「キリスト、エマオへの道にて」カール・ヘンリック・ブロック画、デンマーク、ヒレシエのフレズレックスボル城内にある国立歴史美術館の厚意により掲載





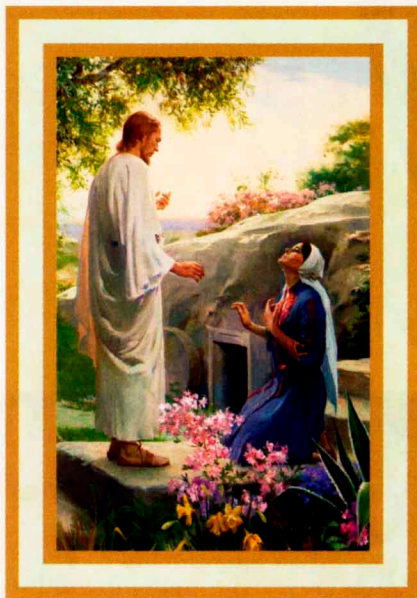
……彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。』(イザヤ53:4-5)

あらゆる人々の罪を自ら進んでその身に引き受ける、というこの清く私心のない行為こそが贖罪なのです。一人の人間が、どのような方法で全人類の罪の重荷を担うことができるのか、死すべき体を持つわたしたちには理解できません。ただ、わたしは次のことだけは知っています。すなわち、イエス・キリストは確かにあらゆる人々の罪をその身に引き受けられたということ、また、そうされたのはわたしたち一人一人に対する限りない愛があったからだということです。』(「イエス・キリスト——わたしたちの神、救い主」『聖徒の道』1991年12月号、4)

### ハワード・W・ハンター(1907-95年)

「キリストの至高の犠牲は、わたしに従いなさいという主の招きを受け入れたときにだけ、わたしたちの生活に完全な効力を発揮します。この呼びかけは、無意味でもなければ非現実的なことでもありません。……

すべての点で、またどのような境遇にあっても、神の御子に従いましょう。主をわたしたちの模範とし、導き手としましょう。どのような場面でも、『イエス・キリストならどうなさるだろう』と自問し、その答えに勇敢に従う必要があります。わたしたちは、言葉の最も純粋な意味において、主に従



わなくてはなりません。主が天父の業をなされたように、わたしたちも主の業に携わるのです。……わたしたちも主に似た者となるよう努めなくてはなりません。かつてこの世が目にした唯一の完全で罪のない模範者キリストのようになるために、力の限りを尽くし、あらゆる努力を払わなければなりません。……

わたしたちは今まで以上に深くキリストを知り、これまで以上に頻繁に主を思い起こし、過去にも増して雄々しく主に仕えなくてはなりません。そうするなら、わたしたちは永遠の命に至る水を飲み、命のパンを食べようになるでしょう。

男女を問わず、わたしたちはどのような人物になるべきでしょうか。主と同じ人物になる必要があるのです。』(「主は従うように招いていらっしゃいます」『聖徒の道』1994年10月号、4、6)

### ゴードン・B・ヒンクレー(1910年- )

「すべての事柄をかながみ、すべての歴史を調べ、人の心の最も深いところを探ってみると、全能者の御子、御父の王家の王子、かつてエホバと呼ばれた御方、身を低くしてベツレヘムで

生まれたみどりごととして地上に来られた御方が、屈辱と苦痛の中で御自分の命をさげられたこの恵みの行為以上に、すばらしく、荘厳で、偉大なものはありません。この御方はその行為によってあらゆる時代の神の息子たちと娘たちの全員、すなわち必ず死ななければならないすべての人が再びその足で歩き、永遠に生きられるようにされたのです。御子は、わたしたちがだれも自分で行えないことをわたしたちのために行ってくださいなのです。……

クリスマスのすばらしい、ほんとうの話は次のとおりです。前書きはユダヤのベツレヘムでのイエスの降誕で、プロローグは主の3年間の教導の業です。そしてこの話の重要な本文は主の犠牲、すなわちわたしたち全員の罪を贖うためにカルバリの十字架上で苦しみを受けてまったく無私の気持ちで亡くなられた行為にあります。

結びは復活の奇跡です。それにより、『アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである』という保証が与えられました(1コリント15:22)。

復活祭がなければクリスマスもありません。ゲツセマネとカルバリで贖いの業を行われたキリストがおられず、勝利の復活の出来事がなければ、ベツレヘムのみどりごイエスはほかの赤ん坊と何も変わらなかったでしょう。』(「クリスマスのすばらしい、ほんとうの話」『リアホナ』2000年12月号、4、6) □



エズラ・タフト・ベンソン



ハワード・W・ハンター



ゴードン・B・ヒンクレー

# 賢明に 秩序正しく

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル



末日聖徒は、もっと多くの人々に奉仕するために、またもっと長い期間人々に奉仕するために、自分の健康と力を維持する知恵を主の王国の貴い特別な財産と考えなければなりません。わたしたちは賢明でなければ、皆「人間疲労」で倒れてしまいます。

多くの人々は、人生のプレッシャーに対処することで、ストレスや「人間疲労」に対する自分なりの対処法を身に付けてきました。わたしはそれらの人々が自分のペースを守り続けられるように多少の確認と励ましを与えます。物事に適切に取り組んできた人々は、聖文の助言にかなった生活をしているようです。

わたしたち一人一人の長所は異なっており、直面している状況も様々で、個々の調整が必要とされます。人生では、自分では制御できない多くの事柄がわたしたちに影響を及ぼします。しかし、一人一人に対して規模の異なるある範囲があり、その中でわたしたちは思いのままに行動することができ、強いられることはないのです(2ニーファイ2:26参照)。例えば、自由に使えるある金額の収入がこの範囲に当たるかもしれません。その範囲内で何を行うかを決めるのは、ひとえにわたしたちにかかっています。

## 聖文をガイドとして使う

わたしたちは自分自身を賢明に制御しようとするときに、基本的な聖文をガイドとすることができます。ベニヤミン王は次のように勧告しました。「これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。」(モーサヤ4:27)

預言者ジョセフ・スミスが重要かつ急を要するモルモン書の翻訳を終わらせたいとしきりに願っていたに違いないとき、一つの啓示が彼に与えられました。「あなたは翻訳できるように与えられた力と手段以上に急いだり、それ以上に働いたりすることのないようにしなさい。しかし、最後まで励みなさい。」(教義と聖約10:4)

このように、主は、「賢明に秩序正しく行う」および「力と手段」のテストとでも呼べるものをわたしたちに与えてくださいました。ところが愚かにも、わたしたちはしばしば、銀行口座に対してはあえて行おうとはしないのに、時間の口座に対しては何枚も小切手を書いてしまいます。時々、わたしたちはあまりにも多くの決心をしてしまうので、それがヤコブの比喩にある樹木のように、「根」が負かされる恐れがあります。そこには、家族関係や友人との関係、神との関係という「根」も含まれます(モルモン書ヤコブ5:37, 48参照)。

わたしの事務所の壁には、アン・モロウ・リンドバー



ベニヤミン王は次のように勧告しました。「これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。人が自分の力以上に速く走ることは要求されていないからである。」



グの言葉が掲げてあります。「わたしは生涯をかけても、わたしの心にかかっているすべての人の要求を満たしてあげることはできない。」(Gift from the Sea [1955年], 124) わたしには一つの忘れられない思い出があります。数年前のこと、ある日の午後遅くに、わたしはもう疲れ切っていたのに、愚かにも二つの病院を訪れました。痛で死にそうな3人の人に祝福を与えるためでした。わたしは疲れ切っていただけでなく、具合が悪くなっていたので、最後の人にはほんとうに十分なものを差し上げられませんでした。そのとき、わたしは物事を「賢明に秩序正しく行って」おらず、力とエネルギー以上に速く走っていたのです。2、3日後に祝福をした方がもっとよかったです。そうすれば、もっとその人の気持ちが分かり、エネルギーを使えたことでしょう。

**快復を図る時間を見つける**

「するとイエスは〔十二使徒たち〕に言われた、『さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行って、しばらく休むがよい。』それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。

そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行った。」(マルコ6：31-32)

イエスは、弟子たちがほかの人々への気配りによって疲れ切っていたのをよく御存じでした。快復を図る時間を取ることは難しいかもしれませんが、しかし、たとえわずかな時間であっても、忙しさの合間に時間の緑地帯を設けることによって、形にとらわれない短い休息の時間を取ることができます。

中央幹部の一人がブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)にある事柄について報告をした後、負担をかけないためにすぐに立ち去ろうとしました。ところが、ヤング大管長は言いました。「どうぞしばらく一緒にいてください。わたしは人々やいろいろな物事のために疲れていますので。」わたしたちはどれほど頻繁に配偶者や子どもたち、同僚、友人と一緒に時を過ごしているでしょうか。ゆっくりと過ごす時間は慌ただしく過ごした同じ時間よりもっと価値があると思います。

**「善なるもの」を選ぶ**

もう一つの事例は、普通は委任に関して使われるものですが、それ以上の意味を含んでいます。

「モーセのしゅうとは彼に言った、『あなたのしてい

ることは良くない。

あなたも、あなたと一緒にいるこの民も、必ず疲れ果てるであろう。このことはあなたに重過ぎるから、ひとりですることができない。』(出エジプト18：17-18)

一般に、モーセは委任の範囲を広げる必要があったと、わたしたちは考えます。また、わたしたちも、わたしたちが仕えている人々も、そこには家族も含まれますが、どのようにしてともに「疲れ果てる」ことになるかをわたしたちは読み取ります。モーセはすべての訴えを聞いていました。しかし、さらに良くないことに、こうすることによって彼の本来の責務が妨げられていたのです。その責務とは、「彼らに定めと判決を教え、彼らの歩むべき道と、なすべき事を彼らに知らせ」ることでした(出エジプト18：20)。

初期の十二使徒は「食卓のことに」携わらないよう勸告されました(使徒6：1-4参照)。実際、食卓のことに携わるのは容易です。それは、世界の国々に伝道活動の門戸を開くことや、おおかみから羊の群れを守ることに比べると、目に見え、測ることができ、実行できるものです。しかし、十二使徒が聖文に述べられている基本的な責務から身を引いていたなら、教会全体が苦しみを被ってしまいます。自分でもほとんど気づかないうちに身を引くことは、わたしたち全員に起こり得るのです。

「賢明に秩序正しく」というからには、人生にはある種の特別な務めに携わる時期があるということです。職業上の責任や公式の召しは与えられたり解かれたりします。しかし、「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようではなければならない」(3ニーファイ27：27)というイエスの戒めに従うことは、常に大切です。

わたしたちは皆、性別にかかわらず、マルタのような心配を警戒することができます。「接待のことで忙がしくて心を取りみだし」すぎると、特別な経験を得られないということもあり得ます。ほかの人々への気配りは、わたしたちから「取り去ってはならない」「良い方」をわたしたちが選ぶ、という保証を自動的に与えるものではありません(ルカ10：38-42参照)。

わたしたちの最も尊い思い出は、「良い方」に関するものです。心配していたことの多くは間もなく忘れ去ってしまいますが、「良い方」はいつまでも残るのです。

ブリガム・ヤング大管長は、数々の困難に囲まれていたのでマルタのように心配して当然であった時期に、そ



うはしないでマリヤのような選択をしました。「自分の経験の中で、わたしは預言者ジョセフとともにいて、彼が公にも個人的にも話をするときに彼の話聞く機会を決して逃さないようにしました。そうすることで、わたしは、彼が話の基とした源泉から理解を引き出せるように、そして必要なときにそれを得て利用できるようにしました。……預言者ジョセフの時代には、そのような時間は世のすべての富よりもわたしにとって尊いものでした。自分がどれほどひどく貧しくても問題ではなく、妻子に食べさせるために食物を借りなければならないとしても、わたしは、預言者が伝える必要のあった事柄を学ぶ機会を決して見過ごしませんでした。」(Deseret News Semi-Weekly, 1868年9月15日付)

ブリガム・ヤング大管長がそのように耳を傾けることによって「良い方を選んだ」ので、その結果は彼からもわたしたちからも「取り去〔られません〕」でした。夫婦は少なくとも週に1度、二人だけで福音に関する会話を持つようにすべきです。たとえわずか10分あるいは15分であっても、一緒に過ごすべきです。

聖文を学ぶときにしばしば福音に対する知的な刺激が増し、それがわたしたちの疲労を軽減し、快復を得るのに大いに助けとなることがあります。また、教会での正

ゆっくりと過ごす時間は慌ただしく過ごした同じ時間よりももっと価値があると思います。特に、配偶者や子どもたち、同僚、友人と一緒にゆっくりと時間を過ごすときにこのことが言えます。

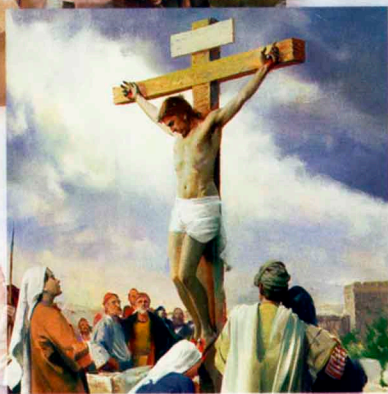
式な責任のほかに、クリスチャンとしての静かな個人的な奉仕から生まれる喜びも同様です。

わたしたちが当惑し困惑したとき、また将来時々そのような状態に陥るとき、ニーファイの模範を深く考えてみましょう。「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのこのの意味を知っているわけではありません。」(1ニーファイ11：17)十二使徒定員会のリグランド・リチャーズ長老(1886-1983年)は、心配することについてかつて次のように述べました。「これは主の教会ですから、主に心配していただきましょう。」(ルシル・C・テイト, *LeGrand Richards, Beloved Apostle* [1982年], 287で引用)わたしたちの中にはまだそこまで霊的に釣り合いの取れていない人がいます。

### 救い主の模範に従う

わたしたちが「今はすべてのことに耐えることはできない」のを(教義と聖約50：40)、主は御存じです。しかし、わたしたちが謙遜<sup>けんそん</sup>であれば、人生の各々の時期にわたしたちに対する主の恵みは十分です(エテル12：27参照)。

ジョン・テラー大管長(1808-1887年)が述べているように、人生には逃れられない事柄があります。「わ



イエスのこの世でのメシヤとしての働きの多くはわずか3年間の非常に多忙な日々を集約されていましたが、イエスは霊的な釣りを保っていたので、個人を大切に、人々の気持ちをくみ取られました。

しであると思われるような事柄の中で、個別的配慮を示されました。イエスがサマリヤの女に生ける水を与えたとき、それは特定の個人に対するものとして行われました(ヨハネ4:7-26参照)。イエスは獄中にある使徒パウロの傍らに立ち、「しっかりせよ」と彼を励まされました(使徒23:11)。これはいづれもたった一人に告げられたものです。

わたしたちは自分自身を知り……自分の長所と短所、無知と知性、知恵と愚かしさを理解する必要があります。それは真実の原則を正しく認識する方法を知るようになるためです。……自分自身の弱さと同胞の弱さを、また自分自身の長所とほかの人々の長所を知る必要があります。……自分自身の知恵や長所を過大評価し

てはなりませんし、それを過小評価してもならず、またほかの人々の知恵や長所を過小にも過大にも評価してはなりません。生ける神を信頼し、生ける神に従ってください。」(Deseret News Weekly, 1854年1月26日付)

日々の選択の多くは本来難しいものではありません。ところが、わたしたちはそれを難しくしようと力を込めてしまいます。ある選択は好みの問題であって、原則の問題ではありません。時折わたしたちは、好みである事柄を原則と考えて格闘しながら、疲れ切ってしまうと善意の行いができなくなってしまいます。

万事におけるわたしたちの模範者であるイエスの霊的に釣りの取れた姿を考えてみてください。

第1に、わたしが見るかぎり、イエスは決して消耗し切ってしまったことはありませんでした。イエスのこの世でのメシヤとしての働きの多くがわずか3年間の非常に多忙な日々を集約されていたことを考えると、むしろ驚くばかりです。

第2に、イエスはゲツセマネと十字架上で苦悶のさなかにもありながらも、ほかの人々の気持ちをくみ取られました。イエスは切り落とされた耳を癒されました。イエスの母マリヤが使徒ヨハネの世話を受けられるようにされました。また、苦しんでいる犯罪人に明日の安らぎを約束されました。

第3に、イエスはほかの人々にとっては経験の繰り返し

新年が巡ってくると、人々は「また1年が来たか」と仕方なく言って、その年を特別な1年とせずにごく普通に過ごしてしまいがちですが、これはまったく人間的なことです。天の御父がこのように気持ちを抱いておられないことを、わたしはとても喜んでいますが、たとえ主の道が「一つの永遠の環である」としても(1ニーファイ10:19; 教義と聖約3:2)、救いの計画がわたしたちの理解を超えたところで何度も繰り返し進められているように、主の愛は不変で、個人に向けられるのです。イエスがそれぞれの癒しを仕方のないもう一つの責務にすぎないとは見ておられなかったことを、わたしはとても感謝しています。イエスにとって、このような責務は喜びでした。

神がすべてのひな菊を同じようなものにするのでお疲れになったということは決してありません、なぜなら神は決してひな菊のことでお疲れになったことはないからです、とギルバート・K・チェスタートンは述べています(Orthodoxy [1959年] 60参照)。わたしたちもほかの人々のことで疲れてはなりません。

### 霊的な強さを保つ

わたしたちは霊的にもそのほかの面でも強さを保たなければなりません。様々な理由から、霊的な強さを保つことはきわめて重要です。その理由の一つとして、事態が多少厳しいと思えるときであっても強くあることには



大きな価値があるから、とすることができます。例えば、イエスがゲツセマネで捕らえられたときに、イエスの弟子たちの気持ちはどのようであったか、想像してみてください。さらに、十字架上のイエスを見たときはどのようだったでしょうか。確かに、それらはキリスト教の歴史の中で最も厳しい時だったことでしょう。

預言者ジョセフがリバティーの監獄に監禁されたのも厳しい時であったことでしょう。彼に従う人々はすでにミズーリ州から追放されていました。そして、彼の働きは終わったように見えました。それでも、主はジョセフに言われました。「地の果ての人々があなたの名を尋ね[る]であろう。」(教義と聖約122:1) 何とすばらしい宣言でしょう。

ジョン・テラー大管長は当時のことを次のように述べています。「わたしたちはミズーリから追放されました。……わたしたちはまとまって追い出される前に、ミズーリのある場所から別の場所へと追い立てられました。その後、わたしたちはイリノイからこの準州に<sup>みわぎ</sup>追い出されました。それがどうしたというのでしょうか。御業は終わったと考えた人々がいたことを、わたしは知っています。わたしはシドニー・リグドンが語った言葉を思い出します。彼は自分の宗教に生きていなかったと思います。彼が教えに従って生活していたとは、わたしは思いません。ミズーリでシドニーのひざはぐらつき始めました。そして、あるときに彼は、『兄弟たち、皆さんは自分の道を行ってください。御業は終わったと思われるからです』と言いました。ブリガム・ヤングは人々を勇気づけ、またジョセフ・スミスは確固として誠実さを保つようと告げました。神が御自身の民とともにいて彼らを救われるからです。」(Deseret News Weekly, 1865年1月4日付, 107)

その後、カーセージの厳しい出来事がありました。まるでジョセフの働きが終わったかのようにでした。ジョージ・A・スミス第一副管長(1817-1875年)はこう言っています。「最もつらい暗黒の時期に、ある人々は次のように感じるかもしれません。そのように感じている人々がいると、わたしは聞きました。すなわち、御業はもう終わる。また、聖徒の敵が非常に力を増し、聖徒を打ち負かすために多くの富とエネルギーを使うのでわたしたちは全員間もなく滅ぼされる、と。わたしはそのような兄弟たちに申し上げます。それはまったく間違っています。あなたがたは、古いシオン号はやがて沈没して人々は海に飛び込むと考えているからです。」(Deseret

News Semi-Weekly, 1874年10月27日付)

信仰の弱い人は一地方の雲を見て、全体を覆う暗闇だと思い違いをします。霊的な強さを保つと、「現在のことをありのままに」見ることによって貴い将来への展望を持つようになります(モルモン書ヤコブ4:13)。


賢明に秩序正しくあることは、わたしたちが「人間疲労」と力と手段以上の決意に対処する助けとなります。賢明に秩序正しくあることは、わたしたちが愛する人々や同僚と「しばらく一緒に」いて人生の特別な務めのた



**霊的な強さを保つと、「現在のことをありのままに」見る  
ことによって貴い将来への展望を持つようになります。**

めに時を過ごせるようにし、また今はすべてのことに耐えられないということをわたしたちに思い起こさせます。賢明に秩序正しくあることは、好みと原則とを区別するのに助けとなります。

わたしたちの時代の要求とチャレンジは大きいですが、賢明に秩序正しくあることは、わたしたちの展望を維持するのに助けとなります。そうすれば、その展望はわたしたちが「賢明に秩序正しく」すべてのことを行えるようにし、やがてわたしたちは「賞を得る」ことができます(モーサヤ4:27)。すなわち、わたしたちが愛した人々や仕えた人々とともに昇栄と永遠の命を得ることができるのです。□



救い主への  
贈り物は  
何がよい  
でしょうか？

(マタイ25：40；3ニーファイ9：20；  
教義と聖約64：34参照)

フォトイラストレーション/ウエルデン・C・アンダーセン



## 質疑応答

# 日常生活の中で、 自分の心を常にキリストに 集中させておくためには、 どうすればよいでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、  
教会の教義を公式に宣言するものではありません。

フォトイラストレーション/クレーグ・ダイヤモンド

## 回答

わたしたちはバプテスマを受けたときに、いつも主を覚えることを聖約しました。日曜日に教会で救い主について考えることは容易ですが、わたしたちは日常生活を送る中でいろいろな煩いに心をとらわれます。しかしそのような中であっても、自らの心をイエス・キリストに向けるためにできることがあります。

まず最初に、従順であろうと努力することができます。七十人のメルル・J・ベイトマン長老は「キリストを中心とする生活を築く唯一の方法は福音の計画に従うことである」と証しています（「キリストを中心とした生活を送る」『リアホナ』1999年12月号, 21）。同様に、ニール・A・マックスウェル長老は七十人会長会に属していたときに、「[キリストを中心とした生活を送るために] 求められることは、実のところきわめて基本的です。それは主の戒めを守ることです」と語りました（“The Christ-Centered Life,” *Ensign*, 1981年8月号, 13）。

従順はなぜそれほど大切なのでしょう

うか。簡単に言えば、従順は生活に主の御霊をもたらしてくれます。聖霊はキリストについて証をされるので、御霊がともにあるときには、わたしたちの思いをキリストに集中させるのがより簡単になるのです。それに加えて、「聖なる御霊の勧めに」従うときに、わたしたちはもっとキリストのようになります（モーサヤ3：19参照）。

戒めに従うときに、救い主を愛するようになります。「あなたの心の愛情をとこしえに主に向けるようにしなさい」というアルマの嘆願はキリストを中心とした生活を言い表しています（アルマ37：36）。主に従うという原則と主を愛するという原則は、お互いに補強し合っています。もしわたしたちの愛情を主に向けるならば、わたしたちは主の戒めに従うようになります。従順になればなるほど、生活に御霊がいっそう強く注がれるようになります。その結果、心と愛情をキリストに向けるのがより簡単になります。

以下の従順さを示す行いは、自らの心を救い主に向けるために助けとなり

ます。

祈る。わたしたちは「常に祈り」（2ニーファイ32：9）、自らの「思いを……主に向ける」よう（アルマ37：36）命じられています。心の中で祈り続けるなら、心の中にある様々な世の煩いを消し去り、霊的な事柄に集中することができます。

聖文を研究する。聖文には、救い主に関する証や洞察が豊富に記されています。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899–1994年）は、次のように教えました。「モルモン書を何度も繰り返して読むことにより、キリストのもとへさらによく近づき、キリストを基とし、キリストにすべての思いを向けるようにしましょう。」（「キリストのもとに来て」『聖徒の道』1988年1月号, 92）

奉仕する。自己中心的でありながらキリストを中心とした生活を送ることはできません。ほかの人々に仕える人は、イエス・キリストと天の御父にも仕えていることとなります（モーサヤ2：17参照）。



## 賛美歌——「靈感と守り」

**「誘** 惑や怒り、失望、恐れな  
どを、音楽によって、良  
い思いに変えることが  
できるのです。

わたしは教会の神聖な音楽が大好きです。回復に関する賛美歌は、靈感と守りを与えてくれます。

音楽の中には、霊性を破壊する、悪質で危険なものもあります。若人の皆さん、それを避けてください。……

思いは、自分自身との会話です。次の聖句が与えられた理由が分かるでしょうか。「絶えず徳で〔わたしたちの〕思いを飾るようにしなさい。』そうするなら、『神の前において〔わたしたちの〕自信は増〔すであろう〕と約束されています。』

——十二使徒定員会会長代理、ボイド・K・バッカー（「啓示の霊」『リアホナ』2000年1月号、27）

神殿や教会のほかの集會に出席する。神殿にできるかぎり頻繁に参入し、教会の集會に毎週出席すると御霊の助けを得て、キリストに心を集中させることができるようになります。

心をキリストに集中させることは、あらゆる努力を払って行う価値があります。ハワード・W・ハンター大管長（1907年-1995年）は、次のように語りました。「わたしたちの生活と信仰が、イエス・キリストと回復された主の福音を中心とするものであれば、たとえ道からそれることがあっても、いずれ正しい道へと導かれます。しかし反対に、わたしたちの生活と信仰が、救い主とその教えを中心とするものでなければ、一時的な成功をどれほど得ても、いつか道を誤ります。」（“Fear Not, Little Flock.” *BYU 1988-89 Devotional and Fireside Speeches* [1989年] 112で引用）

### 読者からの提案

わたしの場合、聖文を探求し、深く考え、祈ることが、自分の心をキリストに集中させるのに役立ちました。感謝しへりくだる思いで聖文を研究することは、生活の中で神を第一にするのに役立ちます。

台湾<sup>タイワン</sup>台南ステーク、

台南第3ワード

林<sup>リン</sup>静<sup>セイ</sup>宜

わたしたちの人生においてイエス・キリストの果たされる役割の偉大さを知るときに、またイエス・キリストを信頼してそのすべての戒めに従うときに、わたしたちの心は日々のあらゆる活動の中にあってもイエス・キリストに向けられるようになります。キリストの御霊がわたしたちの心の中に植えら

れ、キリストを思い起こさせてくれます。コンゴ民主共和国・キンシャサ伝道部  
ムブジマイ支部  
ポール・チャレンジ・チブアブア

朝一番に祈り、主に心に向けるために時間を割くべきです。日中の短い祈りも力になります。このような方法を通して、聖なる御霊はわたしたちの心を鼓舞してくれます。

わたしは聖文に感謝しています。キリストについて読み、研究することにより、キリストが生活の中で占める割合を日ごとに広げていくことができます。オーストリア・ウィーンステーク、  
ウィーン第5ワード  
トマス・シュラムボック

わたしは、日曜学校の教師、またステーク宣教師として働く中で、福音についてたくさんのことを学んできました。手引きの中に提示されているいろいろな物語や例を読むと正しいことをしなければならないという思いになります。教会に出席することは心をキリストに集中させるうえで助けとなります。フィリピン・モンタルバンステーク、  
サンラファエルワード  
マイラ・メイ・C・テメラス

わたしたちは世の中にあっても世のものではないということを常に覚えておくべきです。心をキリストに集中させるために、日々祈り、キリストの愛について考え、日々の活動の中で聖文について深く考えるべきです。

コートジボアール・アビジャン伝道部  
ラッセル・スバイ・ムバヤ長老

心をキリストに集中させることは不可能ではありません。困難の原因とな

っているのは、わたしたちのつきあい  
や、読んだり、聞いたり、見たりする  
ものなのです。賛美歌を口ずさめば、  
悪い思いを追い出し、下品な事柄を避  
けることができます。

ハイチ・ポルトープランスステーキ、  
デルマスワード  
ルーセリン・ビセレス

わたしにとってキリストに心を集中  
させる最良の方法は、戒めを守り、真  
の意味で主の教会の会員として模範と  
なるよう努力することです。また、  
聖餐<sup>せいさん</sup>にあずかるときにイエス・キリス  
トがわたしたちのためにしてくださっ  
たことを思い出すことも大切です。

アルゼンチン・ブエノスアイレス・アド  
ロゲステーキ、  
ロンチャンプスワード  
マーセラ・カタラーノ

ほくは10歳です。ほくは自分の心が  
主と調和するようにいつも祈って、ま  
た学校へ行く前と休憩時間に聖文を読  
んで、キリストを思い出すようにして  
います。ほくには大人の友達がいる、  
その人はキリストを忘れないように会  
社に福音に関係のあるポスターを幾つ  
かはっています。

ブラジル・サンベルナルド・ルジラモス  
ステーキ、  
ブラナルトワード  
カレブ・ロゼッティ・ダ・シルバ

わたしは自分の心をイエス・キリス  
トに集中させるために、いつも一つの  
賛美歌を思い出し、その賛美歌を心  
の中で歌い、大好きな人たちと過ごした  
楽しい時間について考え、神に導きを  
求めることにしています。

ウルグアイ・ドゥラスノステーキ、

サランディ・デル・イ支部  
エドアルド・ダニエル・バレイロ・クアドラ

イエス・キリストのことを忘れない  
ためには、わたしたちの行いと望みを  
主に奉献することが必要です。使徒パ  
ウロもこう語っています。「何をする  
にも、人に対してではなく、主に対し  
てするように、心から働きなさい。」  
(コロサイ3:23)

フィリピン・タクロバン地方部  
タクロバン第2支部  
ニッコロ・マーティン・アントーニ・ロ  
ーレンス・C・フロレンシオ

下記の質問に答えて「質疑応答」の  
ページをさらに有意義なものにしてく  
ださい。締め切りは2002年2月1日、あ  
て先は次のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS,  
02/02, Liahona, 50 East North Temple  
Street, Floor 24, Salt Lake City, UT  
84150-3223, U.S.A.またはEメールで  
CUR-Liahona-IMag@ldschurch.orgま  
でお送りください。

住所、氏名、年齢、所属ステーキ/地  
方部、ワード/支部名を明記のうえ、日  
本語で意見をお寄せください。手書き、  
パソコン、いずれでもけっこうです。手  
書きの場合は、かい書で読みやすい文字  
でお書きください。できれば写真を同封  
してください。ただし返却は致しかねま  
すので、あらかじめご了承ください。類  
似した答えの場合は、代表的なもの1通  
を採用させていただきます。

**質問——教会ではどうして16歳になる  
までデートはしないようにと教えてい  
るのですか。□**



林 静宣



ルーセリン・ビセレス



ポール・チレンゲ・  
チブアア



マーセラ・カタラーノ



トマス・  
シュラムボック



カレブ・ロゼッティ・  
ダ・シルバ



マイラ・メイ・C・  
テメラス



エドアルド・ダニエル・  
バレイロ・クアドラ



ラッセル・スパイ・  
ムバヤ長老



ニッコロ・マーティン・  
アントーニ・ローレンス・  
C・フロレンシオ

# 「よきおとずれ」



イザヤは、メシヤが「貧しい者に福音を宣べ伝え……捕われ人に放免を告げ〔られる〕」と預言しました（イザヤ61：1）。今日世の中で、病気の夫を抱える妻、家から遠く離れている宣教師、健康を害している老婦人、福音の光を探し求める人々など、よきおとずれを必要としている人々がたくさんいます。このクリスマスの時期に救い主の誕生を祝うに当たって、次のような話は主の生涯と贖いによってわたしたちの生活が様々な方法で祝福されているこ

とを思い出させてくれます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、2,000年以上前に羊飼いたちが受けた「大きな喜び」のおとずれは（ルカ2：10）、「あらゆる時代の神の息子たちと娘たち」にあてられたものであると語っています（本誌16ページ参照）。わたしたちの救い主であり、贖い主であるイエス・キリストは生きておられます。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。」（ルカ2：14）

## 霧の中から響いたクリスマスの鐘

ベス・デیلیー

クリスマスの日はわたしの気持ちを表しているかのような、よどんだ暗い朝でした。夫が陸軍から辞令を受けたのに伴い、家族で移り住んだイタリアの町は深い霧で覆われていました。二人の娘は自分がもらったわずかな贈り物にあまり喜ぶ様子はありませんでした。わたし同様、彼女たちはドイツの陸軍病院にいる父親を気にかけていたのです。

「パパがいないとクリスマスっていう感じがしないわ。」8歳のダイアナが言いました。わたしはうなずき、飾り

付け、家族パーティー、お祝いのごちそうなど、クリスマス恒例の楽しい活動について考えていました。

「そうね、でも全員でなくても、こうして家族が一緒にいられてよかったわ。」17歳のアテナが静かにつぶやきました。

夫がドイツの病院から電話をかけてきたとき、わたしは短く話してからダイアナに受話器を渡しました。驚いたことに、彼女は何週間も父親と会ったり話したりしていないにもかかわらず、父親と話すのを拒みませんでした。彼女

の反応に困惑したわたしは、この1か月間の出来事をもとに思い返しました。

数週間前、夫のエドは左の前腕に痛みを訴えました。それは見る見るはれ上がり、固くなってしまいました。医師たちは夫を入院させ、静脈に抗生物質を注射しました。しかし、夫の手は自由が利かなくなってしまいました。

長男が大学から帰宅することになっていましたが、クリスマスは祖母の家で過ごすように手配しておきました。あとの3人の子どもたちはクリスマスの準備を手伝おうとしましたが、クリ

スマスの楽しみによって夫を案じる気持ちが打ち消されることはありませんでした。

痛みが特にひどい夜もありました。なかなか寝つけなかったわたしは、午前3時半ごろに病院に電話をかけました。看護婦は、エドが痛みの激しさのあまり起き上がってうろうろしていると告げました。すると突然、エドに神権の祝福が必要だと感じました。とても早い時間だったので、わたしはホー

**わたしは二人の娘を強く抱き締め、涙を浮かべながらほほえみました。霧の中からかすかにクリスマスの鐘の音が響いてきました。永遠の家族となることを可能にくださった救い主について思いをはせました。**

ムティーチャーのボブ・デウィットに電話をかけるのをためらいました。ところが、午前5時ごろ、ボブは自分の方からやって来てくれました。彼は神権者をもう一人呼び、病院へと急ぎました。ボブは、エドがやがて手を元どおり使えるようになるという祝福を与えるべきだと感じました。

祝福が終わって間もなく、医師たちがエドのベッドを囲んで相談を始めました。彼らは、エドの腕が痛む原因が分かりませんでした。エドは痛みに悩まされながらも、X線で腕の骨しか見えないのは残念であり、もし腕の組織も写し出せれば助けになるのではないかと言いました。エドの言葉は医師たちを驚かせました。

彼らは早速、  
超音波の機

械を用いて、通常用いない方法でエドの腕を診察しました。この診察手順は後に医学雑誌で採り上げられました。

医師たちはこの新しい方法で超音波を使い、エドの前腕の奥深くに広い範囲で感染している患部を見つけました。直ちに手術が行われました。

医師は後に、わたしにこのように言いました。「あのとき感染部を見つけたのは幸運でした。発見があと数時間遅れていたなら、エドは二度と腕を使えなくなるところでした。現状でも、指を動かせるようになるかは疑問ですが。」

医師たちはエドをドイツの大病院へ転院させました。わたしは子どもたちを友人に預け、エドに付き添いました。エドの状態は悪化していきました。感染は骨まで達し、原因が分かりませんが抗生物質はまったく効かなくなりました。



エドが何度も手術を受けている間の日々は、あっという間に過ぎていきました。エドはわたしに、クリスマス子どもたちと過ごすために飛行機で帰るよう勧めました。

こうしてクリスマスの朝を迎えました。わたしは末の娘を抱きながら、どうして彼女が父親と話すことを拒むのか、まだ考えていました。彼女はやっとならぬが受話器を受け取ると、間もなく顔に笑みがこぼれました。

彼女は後でこのように説明しました。「パパが死にそうなのかと思ったの。家を出るとき、病気がとてもひどかったから。」

わたしは二人の娘を強く抱き締め、涙を浮かべながらほほえみました。霧の中からかすかにクリスマスの鐘の音が響いてきました。毎年クリスマスにわたしたちが祝い贈り物、すなわちわたしたちを永遠の死から贖い、永遠の家族となることを可能にしてください。救い主について思いをはせました。主の贖いと神殿の儀式を通して、わたしたちが永遠に一緒にいられることを思い出しました。

エドは9か月間入院し、完全に快復するまでには長くつらい3年がかかりました。しかし、わたしたちはエドが受けた神権の祝福が成就すること、そしてわたしたちが受けている最大の祝福が、主イエス・キリストを通して与えられたことを決して疑いませんでした。

あの朝、イタリアでクリスマスの鐘を聞いたとき、わたしはやっと心からクリスマスを喜ぶことができました。ベス・デイリーはユタ州センタービルステーク、バリッシュキャニオンワードの会員です。

## ペルーのパパノエル ジョナサン・ブラウマン

**部**屋の反対側で、とても真剣に話し合っているポリバルワードの初等協会会長が時折、わたしとメグラン長老に目を向けていました。少ししてから初等協会会長のロハス姉妹がわたしたちのところへ近づいて来ました。わたしは、もしかしたら今日会員でない子どもが初等協会に出席し、わたしたちに紹介してくれるのではないかと思っていました。

彼女はこのように言いました。「長老、ステーキの初等協会のクリスマスプログラムでパパノエル（注——サンタクロスのスペイン語名）の役を引き受けてくださいませんか。」

わたしは何を依頼されたのか十分理解しないうちに次のように答えました。「もちろんです。」まったく予想もつかない要請でした。

数日後、わたしは赤い衣装と帽子、黒いブーツ、つけひげを身に付け、サンタを太って見せるべく衣類を詰めたリュックをおなかに抱え、腕を通しました。ほかの幾つかのワードが出し物を発表した後、幕が開き、ポリバルワードの初等協会の子どもたちが立っていました。

白い衣を着て、頭に輪を付けた天使の聖歌隊、博士、羊を連れた羊飼、そしてもちろんホセとマリヤ（注——ヨセフとマリヤ）も一緒に「み使い空に」（『賛美歌』119番）を歌いました。子どもたちが「グロリア」と1回歌うために3回は息継ぎが必要でした。その真ん中のかいばおけで寝ていたのは、幼子イエスでした。

そして、ロハス姉妹に背中を力強く

押されて、わたしは手綱を取り、2頭の小さい「トナカイ」をステージへと誘導しました。奇跡的に、わたしは自分のせりふをすべて思い出して言えました。「フェリース・ナビタード！（注——スペイン語で『メリークリスマス』を表す）ホー、ホー、ホー！」観客は歓声を上げ、拍手しました。観客から見えませんでした。幕が閉じた後、25人の子どもがわたしに飛びかかり、わたしの上に積み重なって、自分たちのクリスマスを手伝ってくれたことに感謝を表しました。

子どもたちが幼子キリストを賛美する歌声を聞きながら、約2,000年前に起こった次のようなすばらしい光景が心に浮かびました。『〔復活されたキリストは子どもたちを集めて〕一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。そして、イエスはこれを終えると、また涙を流された。……彼らは、……天が開くのを見た。そして、天使がまるで火の中にいるかのような有様で天から降<sup>くだ</sup>って来るのを見た。……そして、天使は幼い子供たちに恵みを施した。』（3ニーファイ17:21-24）

この子どもたちは、主が幼い子どもたちとともにいたときに涙を流された理由をわたしが理解するうえで助けとなりました。ベニヤミン王は「子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり……喜んで従〔う〕者になるようにと語りましたが（モーサヤ3:19）、その言葉の意味を子どもたちは示してくれました。

北アメリカの映画やテレビの特別番組のおかげで、サンタクロスはペルーで有名です。しかし、この子どもの祭典が神聖な日となるのは、救い主が





子どもたちはわたしに自分たちのクリスマスを手伝ってくれたことに感謝を表しました。そして「子供のように…愛にあふれた」者になるという意味を教えてくださいました。

おられるからです。この祭典は主のためにあります。事実、主は一年中常におられます。そして、復活と永遠の命において信仰、愛、希望の贈り物を与えるよう、1年を通じ常にわたしたちの祈りにこたえてくださるのです。

ジョナサン・ブラウマンはユタ州バウンティフルハイツステーク、ミルストリームワードの会員です。

## 12日間のクリスマス

ヤスナ・サンチェス

チリ・サンティアゴにあるわたしたちのステークからラフロリダ第3ワードの若い女性たちとその指導者に対し「12日間のクリスマス」の活動に参加するよう要請があったとき、特別なことが起こりました。わたしたちは12日間毎日、同じワードに所属するブリジダ姉妹を訪問しました。80歳を超え、もう教会に来ることができなくなった姉妹です。訪問するときは、ブリジダ姉妹と彼女の小さな孫娘たちのために

毎回何か違うものを持って行きました。訪問の準備として、若い女性たちとその母親は、パンやクッキーを焼いたり、小さな贈り物を作ったり買ったりしました。

ブリジダ姉妹の家にはぜいたく品はほとんどありませんでしたが、いつも愛にあふれていました。彼女がわたしたちに示してくれた温かい愛と思いやりは心を動かすものがあり、若い女性たちに強い印象を与えました。若い女性たちは、自分の時間をささげることによってどれだけクリスマスが素晴らしいものになったか、そしてどんなに

良い気持ちでしたか、今でもよく覚えています。

わたしは若い女性たちに、クリスマスイブの訪問に何か贈り物を持って来るように指示しませんでした。ブリジダ姉妹と孫娘のためにそれぞれ心のこもったささやかな品を持って来たことを知り、喜びでいっぱいになりました。その晩、若い女性たちはブリジダ姉妹を抱き締めながら泣きました。ブリジダ姉妹の顔に浮かんだ感謝と愛の気持ちがわたしたちへの贈り物となりました。

あのクリスマスイブ、わたしたちはプレゼントやショッピングを忘れ、クリスマスのほんとうの意味を見いだしました。ほかの人々への奉仕こそ、愛と命を祝うこと、そして救い主が歩まれた生涯だと分かったのです。

ヤスナ・サンチェスはチリ・サンティアゴ・ラフロリダステーキ、ラフロリダ第3ワードの会員です。

## 真理への目覚め

パスカル・オーコルディエ

わたしは1964年、パリの近郊でキリスト教に対する基本的な理解を得させてくれた両親のもとに生まれました。特に、わたしが7歳だったときのある日曜日のことを覚えています。教会に行く道中、母はイエス・キリストについて話してくれました。母の説明を聞いていると、ずっと前からキリストを知っているような気持ちになりました。これがわたしの<sup>あかし</sup>証の始まりでした。もっとも、その証はその後しばらく眠っていましたが。

年月がたち、両親は信仰を实践する生活をやめ、わたしは無神論者になりました。神を信じることは自分にとっ

てあまり意味のないことに思えました。

17歳になったある日、わたしは一人で窓の外を眺めていました。どういうわけか突然、神をもう一度信じる気持ちがわいてきました。当時宗教には関心がなかったにもかかわらず、神が確かに存在するという確信が心に芽生えたのです。

翌週、家族でフランス中部のクレルモン・フェランへ引っ越しました。わたしは自分に難しい質問を浴びせました。「イエス様はどんな御方だろう。」「わたしは主とどのような関係にあるのだろうか。」ある午後、数人の青年たちから次のような文章が記された紙をもらいました。「イエスとはどなたでしようか。クリスチャンバブへおいでください。この質問について、若い人々と話し合いませんか。」わたしは青年たちに、自分もまさにその質問について考えていたところだと言いました。そして、じきに伺うと伝えました。

翌日、わたしはクリスチャンバブへ行こうと決心しました。しかし、いざ店の前まで歩いてみると、入ることができませんでした。それから後、何度かそこへ戻りましたが、どういうわけか中に入ることが恐ろしくてたまりませんでした。

バブに入ることができない自分に悲しくなりました。どうしていいか分かりませんでした。しかし、またバブに入れずに帰宅したある日、イエス・キリストがおよそ2,000年前に教会を立てられたことを思い出しました。そうだとすれば、その教会は<sup>こんにち</sup>今日も存在するのではないのでしょうか。その思いが頭に浮かんだそのとき、玄関のチャイムが鳴りました。ドアを開けると、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師

二人がそこに立っていました。わたしは驚きました。彼らが突然我が家に現れたからではなく、自分の反応に驚いたのです。まるで彼らをずっと待っていたかのような気持ちでした。

部屋が片付いていなかったので、宣教師を中へ招き入れるのを戸惑いました。そこで、集会をどこで開いているのかを聞きました。次の日曜日、わたしは彼らがくれた住所の教会の集会に出席しました。イエス・キリストについて、またわたしとイエス・キリストの関係についてその教会で学んだことは正しいと感じました。わたしは間もなくバプテスマを受けました。宣教師がわたしを訪問する前から自分が<sup>みたま</sup>御霊によって福音に改宗していたことを今でも信じています。

バプテスマを受けてから約1年後、フランス陸軍に所属している間はあまり活発に集うことはできませんでした。しかし、証を失うことはありませんでした。陸軍を退役した後、再び活発に集い、祝福師の祝福を受けました。メルキゼデク神権を授かってからカレドニアで伝道し、そして後に結婚しました。

生活の中では引き続き困難な事柄があります。しかし、主が真理を聞くためにわたしを備えてくださったこと、そして7歳のときに聖霊の力を通して最初の証を得たことを思い出すときに、堪え忍ぶ力を見いだします。それ以来、御霊によるあの最初の証について何度も確信を受けてきたことに驚嘆と感謝の気持ちを感じずにはられません。□  
パスカル・オーコルディエは、フランス・カルカソンヌ地方部、トゥールーズキャピトル支部の会員です。

## 神殿での礼拝によって得られる祝福

**わ**たしたちは、さらに主に近づき、祈りの答えを受けようと努めるとき、神殿での礼拝を通じて主の導きを求めることができます。神殿に参入することによって、霊界にいる人々にきわめて大切な奉仕ができるばかりでなく、重要で個人的な祝福も受けます。主はこのように約束しておられます。「わたしは憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう。」（教義と聖約 110：7）

十二使徒定員会会員であったジョン・A・ウィットソー長老（1872-1952年）は、次のように証しています。「神殿は啓示を期待できる場所です。……神殿の内または外で、まったく予期していないときに啓示が与えられ、[日々の生活の中で]心を悩ませている問題は解決へと至るでしょう。」（“Temple Worship,” *The Utah Genealogical and Historical Magazine*, 1921年4月号, 63-64）

### 祈りの答え

6月のある朝、太陽が昇ると同時に、ある夫婦が感謝の祈りをもって一日を始めました。この日、二人は13年間に及ぶ熱心な祈りの答えを目の当たりにしていました。27歳になる彼らの息子とその妻は、神殿に参入するふさわしさを身に付けるため、愛にあふれた監督とともに生活を整える努力を重ねてきました。その朝、息子夫婦は永遠にわたって結び固められることになっていたのです。

この母親は、感謝を込めてこう述懐

しています。「わたしたちが感じた喜びは、言葉ではとても言い表すことができません。神殿で息子と愛らしい伴侶と一緒に座していると、14歳の息子が御霊の導きから離れていくような選択をし始めたときのことが思い出されました。愛に満ちた天の御父からの特別な助けを要する時が訪れたのです。」

神殿に参入することは、わたしたちにとって常に大切なことでした。そして、この神聖な場所で息子について祈る必要があると感じました。神殿に参入する度に、息子の名前を祈りの名簿に書き入れました。

わたしたちは祈りがその日のうちに……遅くとも次の日にはこたえられるよう望みました。けれども年月は過ぎ、息子は教会活動に活発でないままでした。しかし、わたしたちは希望のないまま見捨てられたわけではありません。しばしば聖霊による慰めの力を感じました。神殿で夫とともに祈っていたある夜、『息子は常に見守られてお

り、いずれ悔い改めて教会へ戻って来る』と御霊がはっきりと教えてくれました。また、決してあきらめてはならないこと、息子を愛し続けなければならないことも教えられました。わたしたちの信仰は強められ、心は平安で満たされました。

そして、わたしたちの祈りがこたえられた、あの神聖な日が訪れたのです。」

### 約束された祝福

この夫婦の経験は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が述べた次の預言の喜ばしい成就です。「もし主の宮に行くならば祝福を受け、生活がより良いものとなることをお約束します。……主の宮に行くという素晴らしい機会を活用してください。そして、あなたが神殿で受けることになっている、すべての驚くべき祝福にあずかってください。」（ファイヤサイド、ペルー、リマ、1996年11月9日）

神殿から遠く離れた場所に住んでいる教会員もいます。しかし、すべての教会員は、ふさわしく生活して、神殿推薦状を受けることができます。そして、神殿の儀式のために先祖の名前を探求し提出することによって、先祖が神殿の祝福を受けられるよう助けることができます。わたしたちは、状況が許す範囲で、様々な形の神殿奉仕をすることができるのです。どのような形であれ、それによってわたしたちに祝福がもたらされ、信仰と希望、平安、そして霊的な導きが増すことでしょう。□



# その星を探して

リンディー・テラー

彼女はまだ12歳でしたが、天を眺め、天国があることを信じる賢明な子でした。

**白** 転車に乗っていると、通りの端から漂ってくるパーベキューの煙で目が痛みだします。そのまましばらく目を閉じていると、通りのくぼみにはまってしまい、危うく自転車から落ちそうになります。もう一度前方に注意を集中させます。ネオンの照明や対向車両のヘッドライトが光る中で自転車をこぎ続けなければならないからです。タイの首都バンコクの蒸し暑い12月の夜はすべてが少しかすんでいるように映ります。

ジョーンズ姉妹とわたしはあるアパートの前に自転車を止めます。階段へ向かいながら、「これからだれと会くの」と同僚に尋ねます。

「ノグという女の子よ。」ジョーンズ姉妹は答えます。「彼女は12歳で、先月パプテスマを受けたの。」

わたしはノグについて聞いたことを思い出します。彼女は母親から宣教師を紹介されていました。母親は教会に興味がありませんでしたが、ノグはキリスト教の教えを好むかもしれないと思ったのです。

そのときの宣教師たちは12歳の子に教えることに少々気後れしていましたが、天の御父とイエス・キリストについて教え始めると、ノグはその教えに心をひかれました。ノグは決して宣教師の顔から目をそらしませんでした。

わたしは、にぎやかな通りにある、家族が経営する花屋で働くこの少女が救い主について学んでいる姿を思い浮かべ、心を打たれています。まだ年若い少女がどのようにして、

慣れ親しんだ仏教文化とはまったく掛け離れたイエス・キリストの福音を受け入れることができるのか不思議に思っています。

薄緑色のドアをノックするとノグのお母さんが出て来て、中へ入るように勧めます。わたしたちは靴を脱ぎ、一間のアパートへ入ります。ノグはどこにいるのか尋ねる前に、バルコニーから「姉妹たち、こっちに来て。早く」と呼ぶ声がします。

同僚とわたしはにぎやかな通りが見渡せる小さなバルコニーに行きます。するとノグはわたしの手をつかみ、空を指さしてこう言います。「あれ、見える？ あの特別な星が見える？」

空を見上げます。すると雲の切れ間からかすかに光る星が見えます。「どの星かしら。」わたしは尋ねます。

「ちょうどあそこに、5つの小さな星があるでしょう。あの星は決まった日の夜にしか見えないの。」

もう一度空を見上げます。すると巨大都市の汚れた空気とライトの向こうに5つの小さな星の群れが見えます。わたしはノグに、あんなかすかな光をどうして見つけることができたのか尋ねます。

ノグはただこう答えます。「毎晩あの星を探しているの。今夜は見つかったのよ。」

わたしはそっとノグを見ます。ノグは夜空をじっと見詰めています。その顔は穏やかで、表情は輝いています。ノグの言った言葉は簡潔で、子どもじみしています。でも、賢く教養のあるあの古代の博士たちが語った言葉にとってもよく似ていると思います（マタイ2：2参照）。あの博士たちは約束された星を探しながらどれほどの時間、天を見詰めて過ごした

ことでしょう。そして、その星を見つけたときの感激はどれほど大きかったことでしょう。

花屋で働く12歳の  
ノグは、煙やライト、  
きらびやかな照明、そ  
して汚れた空気などが  
周囲に立ち込める混沌  
としたバンコクの繁華街  
のただ中でイエス・キリストにつ  
い学びました。ノグは博士たちと同様  
にキリストの言葉を探し、見つけ、そして  
熱心に従いました。ノグも「メシヤを待ち  
望み、……メシヤを信じ」る人々に数えられ  
ています（ジェロム1：11）。

どのようにしたら、まだ年若い少女が家  
族の文化や習慣と非常に掛け離れたイエ  
ス・キリストの福音をこれほどまでに快く受  
け入れられるのでしょうか。この疑問は、汚  
れた空気と喧噪が地を覆う中、アパートの4  
階のバルコニーにノグと一緒に立ち、天を  
見詰めているときに答えられます。□

リンディー・テラーはユタ州オレム・レークビ  
ューステーク、レークビュー第1ワードの会員です。



# 子どもに<sup>じゅうぶん</sup>什分の一を 納めることを教える

C・エルマー・ブラック・ジュニア



**娘**が幼かったころ、妻とわたしは日曜日にワードの子どもたちが監督会の一員に（たいていは少額ですが）什分の一を手渡そうとして書記室の前に並んでいるのを見かけました。監督会の一員は子どもたちの什分の一を受け取る度に一人一人を褒めていました。娘は3歳になるころには、すでに什分の一を熱心に納めていました。

親として、わたしたちは自ら什分の一を納めて模範を示し、福音について話し合うことによってこの原則を子どもの心に植え付けました。そのような経験を通じて、子どもに什分の一を納めることを教えるときに大切なことを3つ学びました。

■ 訓戒と模範を通して教える。子どもたちは初等協会に出席することによって、什分の一について多くのことを学べます。しかし、子どもたちの最も重要な先生は親です。

エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899-1994年）は次のように語りました。「教えは訓戒と模範、言葉と行いによってなされるものです。良い模範は最高の教師です。ですから、[親の]第一の責任は、良い模範を示すことです。」（エズラ・タフト・ベンソン「立派な父親、立派な息子」『聖徒の道』1986年1月号、38）

両親、親戚、教会指導者が生活の中で得た什分の一に関する教訓を分かち合えば、什分の一を納めるという原則が子どもの心にさらに深くしみ込みます。両親は、『家庭の夕べアイデア集』（アイテム番号31106 300）の中にあるレッスンをを使って教えるを補足することができます。また、『教師、その大いなる召し』（アイテム番号36123 300）の教授法を取り入れることにより、教え方を改善することができるでしょう。さらに、賛美歌や歌を通して、什分の一を納めることの大切さを深く心に刻み込むことができます。

家庭の夕べで什分の一の短いレッスンをさせると、この教えに対する土台はさらに強められるでしょう。何度も繰り返すことはきわめて重要です。幼い子どもの場合、特にそうです。

■ 称賛や励ましを通して教える。子どもたちが学んだ戒めを実行しようとしているときには、理解の度合いに関係なくたくさん褒めてあげるとよいでしょう。

ゴードン・B・ヒンクレ大管長は次のように述べています。「両親に対する感謝の念はいつまでも変わることがありません。両親は、わたしが物心つくころから、什分の一を納め

子どもたちは両親と一緒に<sup>じゅうぶん</sup>什分の一の年末面接に参加すれば、什分の一の律法を実践することの大切さを肌で感じるようになります。



## 「優先順位を試す機会」

ることを教えてくださいました。……わたしたちは什分の一を納めることを、犠牲と考えたことは一度もありませんでした。むしろ、それは義務であり、幼いながらも自分は主が定められた義務を忠実に果たし、教会に与えられた偉大な業の進展に寄与しているのだと感じていました。」(ゴードン・B・ヒンクレー「神聖な什分の一の律法」『聖徒の道』1991年5月号, 4)

子どもたちは両親と一緒に什分の一の年末面接に参加すれば、什分の一の律法を実践することの大切さを肌で感じるようになります。監督や支部長と正式に話し合うことによって、子どもたちは忠実に什分の一を納め続けようと決心することでしょう。また、神権指導者が励ますことで信仰が養われ、神権の権能を尊ぶようになっていきます。

■ **御霊を通して教える。**子どもは御霊を通して知識を得ると、ますます進んで従いたいと思うようになります。年齢に関係なく、子どもたちは什分の一の律法について祈ったり、什分の一に関する両親の証を聞いたりするときに御霊を感じるすることができます。

年長の子どものなら、神殿や教会堂の建築や保持、教会が刊行する資料の印刷や配送、世界中の伝道活動を賄う資金などが、什分の一を納める会員の信仰の結果であることを理解できます。しかし、成長し、知性が増すとともに、誘惑も増えていきます。その中には、物質主義という誘惑があります。ですから、御霊の導きを認識しそれに従うよう青少年に教えなければなりません。御霊は「〔彼ら〕がなすべきことをすべて〔彼ら〕に示すからです(2ニーファイ32:5)。

両親が一貫して忠実に什分の一について教えるならば、生涯にわたって祝福をもたらす一つの神聖な律法について子どもたちが証を得るのを助けることができますでしょう。□

C・エルマー・ブラック・ジュニアは、ミシシッピ州ジャクソンステーク、クリントンワードの会員です。



十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、自分の子どもたちに什分の一を納めることについて教えた経験について語っています。

「わたしも……卵10個から一つ、桃10かごから1かごというような例で、祖父から什分の一について教わりました。後年、わたしも同じような例を使って自分の子どもに什分の一の原則を教えました。

親は最良の方法で子どもたちに教えようとするのが常ですが、思いがけない結果が出ることもあります。わたしは幼い息子に什分の一を教えるために、10分の1の原則を説明し……ました。わたしなりに分かりやすくはっきりと説明した後で、7歳の息子が理解したかどうか試してみました。自分が農夫で、卵や生まれたての家畜が手に入ったと仮定するように、息子に言いました。数字を示し、什分の一として監督に何を渡せばいいのか、尋ねました。しばらくじっくり考えて息子はこう言いました。『監督にはいちばん古い馬を上げるよ。』

それから什分の一の原則についてもっと話し合ったことは言うまでもありません。わたしは、この息子やほかの子どもたちが什分の一の原則について学び、実践していることを誇りに思っています。しかし、大人の教会員が什分の一の律法について話すのを耳にすると、幼い息子のあの言葉を思い出すことがよくあります。わたしたちの中には、監督に『いちばん古い馬』を渡すような態度を執って、そのような納め方をしている人がいるのではないのでしょうか。

什分の一の納入は優先順位を試す良い機会です。」(ダリン・H・オークス「什分の一」『聖徒の道』1994年7月号, 38-39) □







エディソン・M・カブリート長老が手にしているのは1991年9月号の国際機関誌、子どもたちのページで、娘のジャン・ミッシェルが表紙を飾っている。左から——アビゲイル・モレノ、フローシール・カブリート、キンジロ・モレノ、カブリート長老、ジャン・ミッシェル・カブリートとアイリス・イボンヌ・カブリート。

写真/ロジャー・テリー

# 信仰によって 歩む フィリピンの聖徒たち



ロジャー・テリー

フィリピンのバギオに住むボビー・モレノとアビゲイル・モレノは信仰がどのようなものかある程度知っています。二人は「神は奇跡の神であることをやめてはおられない」(モルモン9:15)と宣言したモロナイの言葉がどのような意味を持つかということもある程度知っています。モレノ夫妻の息子であるキンジロは、左脳の発達を妨げるのうほう囊胞(訳注——動物組織にできた袋; 中に液が入っている)を持って生まれました。キンジロは生死の境をさまよい、医師は両親にあまり希望は持てないと告げました。

アビゲイルは信仰篤い末日聖徒の家庭で育ちました。父親は地域幹部七十人のエディソン・M・カブリート長老です。けれども教会員でない親戚の人たちは、この試練を受けている彼女を励ますどころか、むしろ非難しました。「ほかの教会になんか行っているから

こんなことになるんだ」と言って叱責しっせきしました。「こっちの教会へ戻って来なさい。そうしたら、キンジロの病気が治るんだから。」

けれどもアビゲイルは自分の信仰を捨てるようなことはしませんでした。息子が神権者から祝福を受けたこと、会員たちが神殿で祈ってくれていることを親戚の人たちに話しました。「望みは捨てません。息子はこれからも生き続けます」と彼女は言いました。

キンジロはほんとうに生き続けました。現在3歳になります。回復への道は決して易しくありません。けれども、彼は明るく、優しい男の子です。キンジロが退院して、初めて家に帰ったとき、医師たちはわずかの間しか生きられないだろうと考えていました。しかし、最近の検査で、彼の脳は発達していることが分かりました。将来の見通しは前よりもずっと明るくなりました。

「息子は3年間生きてきました。こ



れからもきっと生きていくと思います。息子にはきっと天父に仕える義務があるんです」と母親は言います。

信仰は様々な形で表されます。モレノ家族の場合のように、信仰を行使することによって奇跡が起こることもあります。しかし多くの場合、信仰は人々の注目を集めるような方法ではなく、静かに力を表します。例えば、信仰によって主の弟子たちは試練や困難に耐えることが可能になり、この世的に成功しても謙遜でいることができます。人々に歓迎されなくても、あるいは嫌われても、正義を守るために立ち上がる勇気を得ることもあるでしょう。

フィリピンが福音を宣べ伝える国として奉献されてからまだ40年しかたっていない。しかしこの国に住む末日聖徒の間には、これらの標準に基づいた信仰が生きており、満ちています。(1961年4月に当時十二使徒定員会補助を務めていたゴードン・B・ヒンクレー長老が伝道活動を開始するためにこの島々の門戸を開きました。)この国のほとんどの教会員にとって生活は易しいものではありません。国全体が貧困にあえいでいます。今日世界中で威を振るう邪悪な影響力や誘惑はこの熱帯の国をよけて通り過ぎるわけではありません。それでも、多くの教会員は献身と奉仕について模範的な生活を送っています。そしてそのような生活の一つ一つに信仰の物語が隠されているのです。

### 「信仰が試され」ること

モロナイはエテル書第12章6節で「信仰が試され」ることについて述べています。この試みを受けずに済む末日聖徒はいません。主が「わたしの

民は、すべてのことにおいて試みを受けなければならない。それは彼らが、わたしが彼らのために持っている栄光、すなわちシオンの栄光を受けるように備えられるためである」と言っておられるからです(教義と聖約136:31)。

レイテ島のフィリピン・トロサ地方部トロサ支部に所属するヨランダ・カントスはまさにこの信仰の試しに耐えました。1985年、当時22歳だったヨランダは、近くのサマル島を訪れました。その島に住む親戚の人たちから宣教師のレッスンを受けるように勧められました。ヨランダはその誘いを受けることにしました。彼女はほかの教会の熱心な信者だったので、ほんとうは宣教師たちを言い負かしてやろうと思っていたのです。「わたしはきっと宣教師たちは間違っているだろうと思っていました」とヨランダは言います。しかし聞いてみると、意外なことに「御霊がわたしに影響を及ぼしました。そして彼らの教えの中に間違いの一つも見つけることができませんでした。」宣教師たちから欺かれているのではないかと恐れたヨランダはトロサの自宅に戻りました。けれども、祈る度に宣教師の教えが心に浮かんできました。そこで、再びサマルに引き返して、宣教師から福音を学び続けました。

「わたしはバプテスマのチャレンジを2度受けました。教会が正しいことを知っていましたが、自分の家族や友達のことを考えると決心がつきませんでした。彼らはほかの教会の会員でした。それにわたしはその教会の聖歌隊のメンバーでした。けれども、友達がバプテスマを受けるのを見に行ったりするとき、なぜ何度も何度もイエス・キリス

トを拒むのかと問いかける声が聞こえてきました。友達が水中に沈められた瞬間、わたしは自分がバプテスマを受けている姿を見ているような気がしました。集会が終わってから、たとえばのようなことになっても、バプテスマを受けたいと宣教師に告げました。」

ヨランダのバプテスマはその1週間後に行われました。母親はそのことを知ると、ヨランダに絶対に家に入ることを許さないと言いました。新しい信仰を捨てるなら、もう一度家に入ることを許すと言いました。ヨランダは、きっといつかお母さんにもわたしの選択が正しかったって分かる日が来るわ、と言って、サマルへ戻り、親戚の家に身を寄せました。ヨランダは家族のために断食し、祈りました。1か月後に兄弟が、1年後に母親が教会に



入りました。「このようなことが起きたのは断食と祈りのおかげです」とヨランダは説明しています。

主の教会への道は安易なものではありませんでした。しかし、ヨランダが耐えた信仰の試しには十分な報いがありました。彼女は1993年にフィリピン・マニラ神殿で結婚しました。夫のフェリックスは帰還宣教師で、トローサ支部の支部長を務めています。彼らは二人の息子ジェド・エフライムとラッセル・ジェーコブに恵まれています。

トローサ地方部の部長ホセ・メディナと妻のフェリシタスも信仰の試しを経験しました。フェリシタスはほかの教会の活発な会員でした。しかし、その教会に対して疑問を持っていたため、主のまことの教会を探していました。子どもたちが幼い間にまことの教

会を見つけて、子どもたちに教えられたようにと熱心に祈っていました。そしてある日、床を掃いているときに、ジョセフ・スミスについて紹介するパンフレットを見つけました。彼女は現在に至るまで、なぜパンフレットが床に落ちていたのか分かりません。住んでいた住宅地の入り口はゲートで管理されていて、宣教師が入れなかったからです。彼女はパンフレットを読んで、教会に興味を持ち、宣教師に訪問してもらうことにしました。

夫は最初の3回のレッスンに出席できませんでした。けれども宣教師はフェリシタスに、学んだことについて祈るように言いました。フェリシタスは祈り、そして救い主についての夢を見ました。「それは再臨の夢だったと思います。人々は大喜びしていたのです

が、わたしたちはその人たちの仲間ではなかったので喜んでいませんでした。」彼女はまことの宗教を見つけたことに気づきました。そして、そのことを夫とともに分かち合いたいと思いました。

夫のホセは宣教師の話に耳を傾けていましたが、バプテスマを受ける気はありませんでした。ヘビースモーカーだったからです。彼は宣教師に、十戒を信じていることを話しました。すると一人の長老がなぜ十戒をすべて守らないのかと尋ねました。その長老は十戒の中には「あなたは殺してはならない」という戒めがあると言いました(出エジプト20:13)。「あなたは喫煙によって少しずつ自分を殺しています」と長老は言いました。

最終的にホセはバプテスマを受けることに同意しましたが、まだたばこをやめられませんでした。それで宣教師たちはバプテスマを延期しなければなりません。フェリシタスは夫にもっと強い動機づけが必要であることを感じました。そこで、夫がたばこを1本吸う度に、自分は1食断食すると言いました。「そんなことをしたら死ぬでしょうよ。ぼくは1日に5箱吸っているのに」とホセは言いました。けれどもホセは主の助けにより喫煙をやめて、15日後にバプテスマを受けました。

それから3か月後にメディナ兄弟は

**ヨランダ・カントスがたどった主の教会への道は容易ではなかったが、彼女の耐えた信仰の試しは十分な報いをもたらした。左——ヨランダとフェリックス・カントスと二人の息子、ジェド・エフライムとラッセル・ジェーコブ。背景——レイテ島のトローサ集会所。**





支部長に召されました。その後、彼は地方部幹部書記と地方部書記を務めました。そして現在は地方部長として働いています。メディアナ姉妹は支部と地方部の若い女性会長、扶助協会会長を務め、10年間にわたってセミナーを教えました。「わたしたちは信仰の試しが好きです。それは耐えるだけの価値があります。わたしたちが受けたすべての祝福は神から与えられたものです」とメディアナ姉妹は言います。

### この世の成功によって生じる試し

フィリピンにおいて貧困は大きなチャレンジであり、それは多くの末日聖徒にとっても厳しい現実の試練となっています。しかし、この世的な成功が霊的な意味でもっと大きな問題となる人々もいます。モルモン書はとりわけ、繁栄によって生じる危険について力強く証しています。モルモンが語ったように、「また、主が御自分の民を榮えさせられるまさにそのとき、……彼らは心をかたくなにし、主なる神を忘れ、聖者を足の下に踏みつけるということが、わたしたちに分かるのである。これは、彼らが安楽で、非常に豊かに繁栄したためである。」(ヒラマン12:2)

フィリピンの一部の末日聖徒はこの世の富を祝福され、この世の富によって試されながらも、自分たちの交わした聖約を覚え、信仰をもって謙遜に主に仕えています。そのような一人がフィリピン・バギオステーキ、バーンハム第1ワードに所属するルネイブルネ・イベイです。

気候が穏やかで湿度が低いために、最も暑い時期を迎えると行楽客でにぎわいを見せることから、フィリピンの夏の首都と呼ばれているバギオはマニ

ラの北約210キロに位置するルソン高地にあります。この山岳地帯は銀鉱山で有名です。アブリーノ・イベイとルネイブルネ・イベイは銀細工の店のオーナーです。その店は指輪やネックレス、タイピンから手の込んだ「ジープニー」(軍用ジープのボディに様々な装飾を施して改造したミニバス。現在は公共の交通手段として使用

### 現在のフィリピン

島の数——7,107 (名称の付けられている島が3,000 ; 町の築かれている島が25)  
面積——30万平方キロ  
人口——7,700万人  
会員数——47万人以上  
ステーキ数——77  
地方部数——73  
ワード数——490  
支部数——667  
伝道部数——13  
神殿数——1 (フィリピン・マニラ神殿)

されている)の模型に至るまで、あらゆるものを製造し、販売しています。

イベイ夫妻が銀細工の店を始めたのは教会に入る前ですが、イベイ姉妹はこう話します。「わたしたちの事業が大きくなってきたのは、<sup>じゅうぶん</sup> 十分の一の律法を守っているからです。」彼女は自分の一だけでなく、すべての戒めについて強い気持ちを抱えています。「わたしたちが主から受けた恵みに対して

お返しできる方法は、主の戒めを守ること以外にありません。」

イベイ姉妹はワードの扶助協会で奉仕してきました。最初に会長、次に教師、そして現在は副会長として働いています。彼女は、教会は自分の生活にはなくてはならないものと言います。「教会はわたしたちのためにあるのです。毎週日曜日に教会へ行かないと霊性がとても低くなります。毎週日曜日、霊に活力を補給し、霊に食物を与えなければなりません。聖文や『リアホナ』を毎日読む必要があります。」

首都マニラのフィリピン・ケソンシティーステーキの会長を務めるラモン・デル・ロザリオも仕事で非常に大きな成功を取っている末日聖徒の一人です。デル・ロザリオ会長は医師ですが、医療行為に携わっていません。音楽の才能を生かしています。「モン」・デル・ロザリオは有名な作曲家兼歌手で、映画音楽を300曲近く書いています。「フィリピンのローカル・ケーブルテレビ局にチャンネルを合わせると、わたしの作曲した音楽を使っている映画が毎日3本から5本上映されていると思います」とデル・ロザリオは言います。

デル・ロザリオは音楽で身を立てていくつもりはありませんでした。医師になるつもりでした。医大の3年生のときに、作品の一つを全国歌謡曲作詞作曲コンテストに出したところ、第1位に輝きました。「医大を卒業するための学費は音楽で稼いでいました」と彼は言います。しかし、医療の現場に立つことは一度もありませんでした。「卒業証書を手にしたときに、父に尋ねました。『お父さん、ぼくがほんとうにしたいことをしていいです



**ラモン・デル・ロザリオは作曲家、演奏家として学んだ教訓をケソン・シティーステークの会長としての召しを果たすうえで役立てている。**

か。』父の承諾を得てから始めた音楽の道は、大きな成功を収めています。

創作力と締切日とが一致しないことは往々にしてあります。しかし、締切日が近づいているのに、インスピレーションが受けられないときは、よく祈るとデル・ロザリオ会長は言います。「音楽のひらめきを全部使い切ってしまったと思うことが時々あります。けれども、新しい曲のアイデアは突然やって来るのです。」

デル・ロザリオ会長は音楽産業における経験を教会の召しにおいても役立ててきました。歌を歌うときに、たとえ音程が合っていて、美しい声に恵まれていても、タイミングがずれていると、良い音楽には聞こえません。「指導者の責任を果たすときも、正しい指針や正しい原則に基づいていても、タイミングを間違えたら、良い結果につながらないことをいつも自分に言い聞かせています。」ステーク会長としての自分の召しについて彼はこのように言います。「わたしはステーク会長は音楽をオーケストラ用に編曲する人ではないかと思っています。ステーク会

長がすべての楽器を演奏するわけではありません。ほかの人々が一緒になってうまく演奏しているか確かめる指導者としてそこにいるのです。」

### 自分の原則を擁護する

黙ってやり過ごす方がはるかに楽な場合に、末日聖徒としてあえて発言するには信仰が必要です。ほとんどの人が何もしないときに、行動を起こすには信仰が必要です。しかし、まことの信者は「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、…神の証人になる」ようにとアルマは教えました（モーサヤ18：9）。

フィリピン・パサイステーク、パサイ第1ワードのメラニー・ガピスはこの原則を自らの体験によって学びました。地域幹部七十人ルーベン・G・ガピス長老の娘であるメラニーはフリーのテレビコマーシャル・プロデューサーとして成功を収めています。彼女は数年間、マニラの著名なテレビコマーシャル制作会社の制作部長として働いていました。一部の従業員が金銭を不正に着服しているのを目にした彼女

は、部長としての責任上、難しい局面に立たされました。「わたしは何人かの職員が関係した違法行為を見つけました。会社の中で不正に金銭を手に行っている人たちがいました。」

彼女は直属上司に報告しましたが、彼も不正行為に加担していたことが分かりました。「そこで、社長のところへ行きました。社長は関与していませんでしたが、そうした行為についてある程度のことを知っていました。けれども、まったく無関心でした」と彼女は言います。社長の姿勢にメラニーはジレンマを覚えました。事実には背を向けて、問題がなかったかのように振舞うこともできました。けれども、このような会社で働いていると、彼女自身も不正行為に関与していると人々から思われるかもしれません。「難しいことでした。わたしはその会社から給料をもらって生活していたからでした。」けれども、メラニーは自分が何をすべきかを知っていました。両親に相談したところ、両親は教会の教えている標準を思い出させてくれましたが、最終的には自分で決めるようにと



告げました。メラニーは会社を辞めて、自由契約で働き始めました。

「円満に退社しました。実際、社長と話しているときに、彼はわたしが貫いた原則を称賛してくれました。しかし、そのような原則に従っている社員を食べさせていくことはできないだろうと言いました。」メラニーは自分の下した結論を後悔していません。主はそのような彼女を仕事の面で祝福してられました。

「わたしはイエス・キリストの福音をずっと信じてきました。什分の一の律法によって助けられてきましたし、断食と祈りはわたしを支えてくれます。大切な決断を下すときはいつも、断食して、そのことについて祈り、助けを得ています」とガピス姉妹は話しています。

フィリピン・バギオステーク、パーンナム第2ワードのアビゲイル・モレノは正しいことのために立ち上がらなければならなかった経験について話しています。フィリピンで人気を集めているあるトークショーには、司会者が視聴者からの手紙を読み上げる「バイハート」と呼ばれるコーナーがあります。手紙には感謝している事柄を7つ書き出すことになっています。アビゲイルは手紙を書いて投函とうかんしましたが、自分の手紙が読まれるとは思っていませんでした。冒頭に「番組は好きですが、不快に感じるがあります」と書いたからでした。司会者が主の名を冒読ぼうとくする言葉をしばしば口にするため、心を痛めていることを説明しました。自分の家族も教会も天父の名を尊ばなければならぬと信じていると記しました。

ある日、夫のポビーと一緒にほかの

局の番組を見ているときに、トークショーが始まっていることに気づきました。チャンネルを合わせると、彼女の手紙が読まれているところでした。手紙の最初の部分はもう読まれた後でした。彼女の「感謝したいこと」の6つ目の項目が読み上げられているところでした。けれどもアビゲイルは、その番組の最後までその司会者が主の名をみだりに口にしなかったことに気づきました。アビゲイルは、あの手紙を書いたのでこのような違いが生まれたのだと感じました。

### 「奇跡の神」

信仰のあるところには奇跡も存在します。なぜならば、「神は奇跡の神であることをやめてはおられない」からです（モルモン9：15）。信じる者には奇跡と霊たまものの賜物が伴うと預言者たちは教えています（モルモン9：24；モロナイ10：8-19参照）。フィリピンにおいては、会員たちの間に信仰の実をはっきりと見ることができます。

首都マニラのフィリピン・カインタステーク、タイタイ第1ワードのルネ・ホルガンサとマイラ・ホルガンサは戒めを守る人々を主が祝福してくださいることについて強い証を持っています。フィリピンでは良い仕事を見つけにくいいため、ホルガンサ家族は9年間日本で働きました。しかし、マニラに戻って来ると、まるで波が押し寄せるように、経済的な問題が次々と起きました。ホルガンサ家族は大病を患い、その医療費を支払うために家を抵当に入れなければならぬませんでした。ルネは一時期仕事を見つけることができなかつたため、借金を返済することができませんでした。銀行からは家を抵当



**メラニー・ガピスは主の助けによって大切な決断を下すために断食し、祈った。背景——フィリピン・マニラ神殿。**



MEMORIAL  
PLAZA ONE  
HALL



流れ処分になると脅されていました。教会からの援助を要請するために彼らは監督のもとを訪れました。監督はルネが什分の一を完全に納めているかどうかを尋ねました。ルネは当時を思い出してこのように話しています。「わたしは、いいえと答えました。すると監督はこれから什分の一を完全に納める気持ちがあるかどうかを尋ねました。わたしは、はいと答えました。そのときを境にしてわたしは什分の一を完全に納め、さらに、それ以前の分の埋め合わせをするために少し上乘せして納めています。」

彼らはたまっていた請求書を完済し、抵当流れ処分を免れるために、家を手売ろうとしましたが、買い手が見つかりませんでした。近くで地滑りが起きたため、彼らの売値は市場価格より安かったにもかかわらず、その地域で不動産を買おうとする人がいなかったのです。ついにホルガンサ夫妻は家を手売することをあきらめました。銀行の手に渡ってしまうのだらうと思っていました。

ホルガンサ夫妻は再び監督のもとを訪れました。監督は断食して、引き

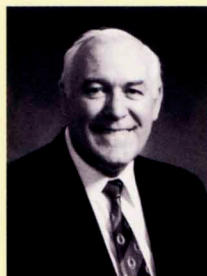
じゅうぶん  
**ホルガンサ家族は什分の一とさげ物を忠実に納めることによって祝福を得た。左から——フリツィー、ルネ、マイラ、ジャスティン。背景——首都マニラのフィリピン・マカティステークセンター。**



続き什分の一を納めるように勧めました。そして、主は彼らの必要を満たしてくださいと言いました。「そこでわたしたちは断食しました。什分の一とささげ物を納め続けました。きっと何か起きることを信じていました。」

ある日、不意に一人の人がホルガンサ家を訪ねて来て、家を売るつもりがあるかと尋ねました。夫妻が売るつもりがあると答えると、提示していた価格よりも高い金額で買ってくれました。彼らはこのお金で抵当分を返済し、ほとんどの借金を支払い、車のローンを支払うことができました。ルネは現在、この車を使ってタクシーを運転し、家族を養っています。彼らはこれが奇跡だと考えています。什分の一とささげ物の律法を守り、主を信じる信仰を行使し、監督からの靈感に基づいた勧告に従ってきたことに対する直接的な答えだと考えています。

今年フィリピンでは3万人以上の改宗者のバプテスマが見込まれています。その一つ一つに物語があることでしょう。信仰、心の変化、難しい選択、犠牲の物語です。そして歳月の経過とともに彼らの信仰は試され、強められ、磨かれていくことでしょう。個々の教会員が確固として信仰の道を歩み続けるならば、主の驚くべき業は明るく希望にあふれる太陽のように、フィリピン全土を照らすことでしょう。回復された福音の光は無数の人々の生活に輝きを与えることでしょう。なぜならば、それはまことに真理の光であり、「光を受け、神のうちにもいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる」からです（教義と聖約50：24）。□



## フィリピンで輝く 「隠れることができない」キリストの光

七十人 デュエイン・B・ジェラード

フィリピン地域会長会で働いていたとき、わたしはフィリピンの人々が忠実さと献身の度合いを深めていく様子を見てきました。改宗者のバプテスマの数が増加しました。神殿参入者数、特に初めてのエンダウメントを受けるとささげ物を忠実に納める人々が増え、メルキゼデク神権者の数は毎年増加しました。青少年の出席と活動が増え、セミナーとインスティテュートの登録が上昇しました。

これらすべての指標は生ける預言者と主御自身が約束し、預言してこられた祝福が驚くべき方法でますます豊かに人々のうえに注がれていることを示しています。会員たちが忠実さと献身の度合いを深めていけば、主は御自分の民に対して引き続き祝福を注がれることでしょう。

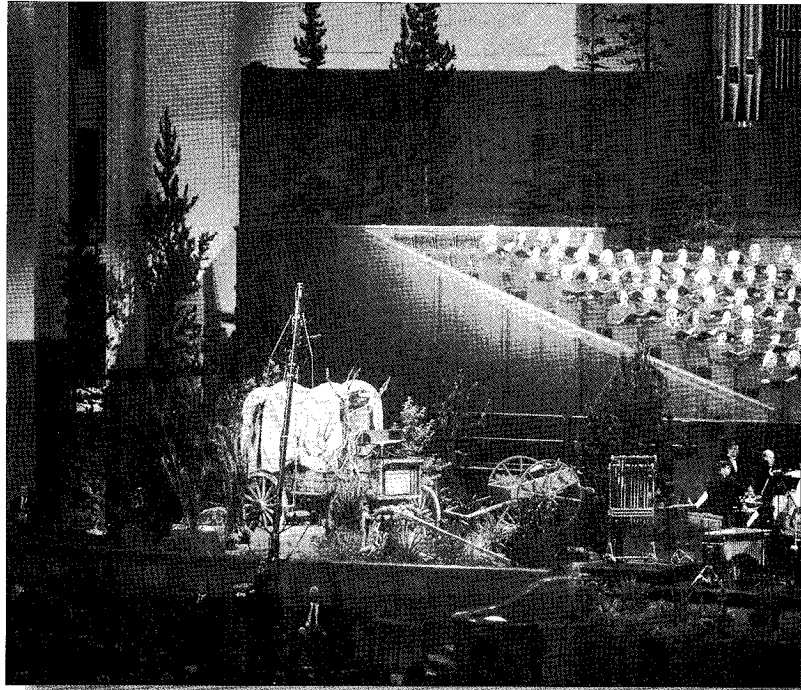
1984年9月25日にフィリピン・マニラ神殿を奉獻した際、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が祈りの中で述べた嘆願の言葉は、今後もきっとかなえられていくことでしょう。ヒンクレー大管長は主に向かって次のように嘆願しました。「多くの人々が苦しんでいる貧困の原因を取り除いてください。什分の一とささげ物をあなたに正直に納めている忠実な聖徒たちを特に祝福してください。かつてあなたの預言者マラキに約束されたように、天の窓を開いて、あふれる恵みを注いでください〔マラキ3：10参照〕。聖徒たちの信仰を祝福して、彼らがあなたの聖約の民としてずっと忠実であることができるようにしてください。彼らの家庭に愛と平安があるように祝福してください。彼らと彼らに続く世代が飢えることなく、裸であることなく、彼らを襲う嵐から避難する場所を持たないことのないように祝福してください。彼らの心を開いて、霊的なことにも現世のことにも知識が増すよう祝福してください。」

幾多の島から成るこの国の教会が数において増え、発展しますように。教会の敵のもくろむよこしまな目的がくじかれますように。あなたの御業が「山の上にあつて隠れることができない町」となりますように。」「(“Temple Brings Philippines All Blessings,” *Church News*, 1984年9月30日付, 10で引用)

「山の上にある町は隠れることができない」という預言は確かに島々から成るこの特別な国の中で現在成就しつつあります（マタイ5：14参照）。わたしはこの輝かしい発展と祝福を自分の目で見られたことを感謝しています。□

# 「開拓者を忘れてはならない。」 ヒンクレー大管長をはじめとする教会指導者は語る

## チャーチ・ニュース



カンファレンスセンターで行われたこのプログラムのために展示された数々の装飾品の中で、この荷車は開拓者時代のものである。

7月22日の日曜日の夕べ、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、カンファレンスセンターに約2万1,000人が出席して開かれた、いわゆる「開拓者の日記念祭」の第1回年次集会で話をした。

「開拓者がこの地へ到着したことについて霊的な意義を強調するために、このような集いを開くことを提案しました。わたしたちは開拓者の日を祝う特別な催しとしてこれらの集いを設けました。この山々の合間に民が定住するに当たって神の手があったことを忘れないためです」とヒンクレー大管長は語った。

1時間に及んだ記念集会上において、モルモンタバナクル合唱団とテンプルスクウェア交響楽団は

開拓者の日記念祭の第1回年次集会で話をするヒンクレー大管長。

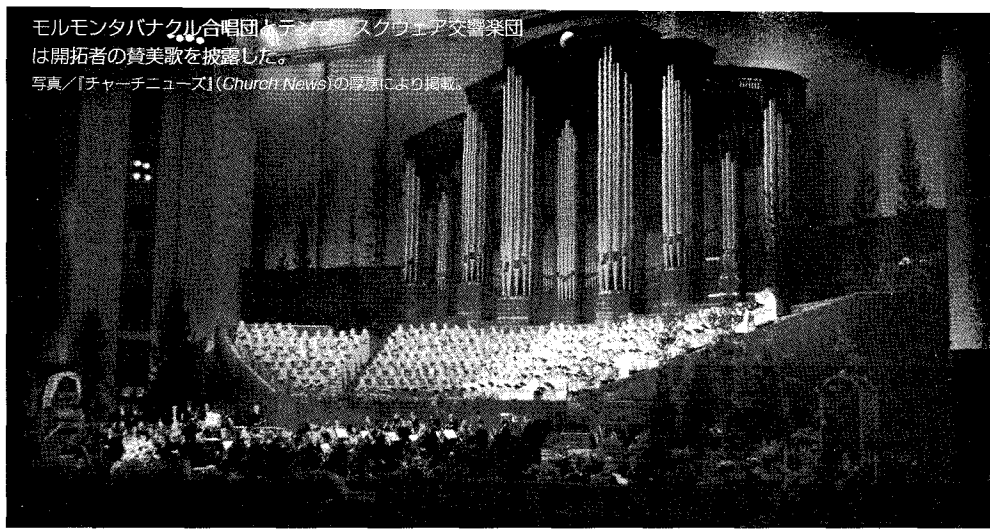


開拓者の賛美歌を9曲披露した。なお、このプログラムの模様はインターネットを通じて、さらに合衆国とカナダの教会集会所には中継で放送された。

「わたしはこの機会に、ほかの宗教を信じる人々に対して、寛容と隣人愛、友情と愛の精神を示すよう訴えたいと思います。このような姿勢を貫くことによって、何年か後には7月24日のパレードや関連する幾つかの祭典において、この精神が様々な形で強調される傾向が増すようになることでしょう。けれどもわたしは、1847年に初めてこの盆地に到着した人々の成し遂げた偉大でたくいまれな功績について、わたしたちが忘れるようなことが決してあってはならないと感じています。」

大管長会のジェームズ・E・ファウスト第二副管長は7月24日にジョセフ・スミス記念館で開かれた「1847年時代」委員会の昼食会で話をした。ファウスト副管長は話の中で、自らが神の御心みこころを行っていることに揺るぎない信念を持ちながら開拓者を導き、またなすべきことを成し遂げるために多くの勢力と労力を注いだブリガム・ヤングに対して賛辞を贈っている。

ファウスト副管長は昼食会に先立って行われたソルトレーク・シティの「1847年時代」年次パレー



下に教会を代表して出席した。パレードのテーマとして採択されたのは「全世界から訪れた開拓者を歓迎する」である。

24日の早朝、七十人のレックス・D・ピネガー長老はソルトレーク・タバナクルで開かれた第55回「1847年時代」日の出集会に出席して基調説教を行った。「わたしたちは周りに先人たちの努力によってもたらされた実をはっきりと見ることができます。彼らは多くの国々から勇気と信仰をもって、荒れ果てた未知の地にやってきました。彼らはほかに類を見ない決意と勇敢さによって砂漠を征服し、居住地を築き、新しい生活を確立するためにすべての持ち物をささげました。」

ピネガー長老は、ソルトレーク盆地が世界の国民が行き交う偉大な地となると

語ったブリガム・ヤングの大胆な言葉を引用している。「地の国々の王、皇帝、身分の高い人、賢人たちがこの地のわたしたちを訪れることでしょう。」

「これらの約束は忠実な先祖の心に希望の種として植え付けられ、預言の成就

として現在わたしたちが刈り取っているのです」とピネガー長老は語った。「わたしたちはまさしく、あらゆる国民を友とし、彼らが行き交う地としました。来年は、あらゆる国民の旗として築かれたわたしたちの美しい町に全世界の人々を迎えることとなります(イザヤ5:26参照)。」

ユタ州知事マイケル・レビット氏も世界の人々を歓迎すると語った。「1847年時代」委員会の昼食会で壇上に立った同知事は間もなくソルトレーク・シティに到着する聖火について、「それはこの盆地に到着した開拓者をたたえる証となることでしょう」と述べた。レビット知事は、150年以上の昔に開拓者たちが築き上げた近代都市に聖火が入場する光景を全世界の約36億の人々が目にするであろうと述べている。2002年2月にオリンピックが開幕するとき、「わたしたち全員が開拓者をたたえる精神がみなぎることを祈念している」と語った。□



ソルトレーク・シティの「1847年時代」年次パレードに教会を代表して出席したファウスト副管長。

## モンソン第一副管長、メーザー像をドイツで奉獻

7月14日、大管長会のトーマス・S・モンソン第一副管長は、ドイツのドレスデンステーキセンターにおいて、カール・G・メーザーを記念する像を奉獻した。

「カール・G・メーザーの才能を、一国、一大陸にとどめておくことは不可能でした。」ドイツ・ザクセン州で初めての改宗者であり、後に、今日のブリガム・ヤング大学の前身であるブリガム・ヤング・アカデミーの第2代学長となったこの男性

をたたえて、モンソン副管長はそのように語った。このブロンズ像は、ブリガム・ヤング大学キャンパスに飾られている像の複製である。

メーザー兄弟とアナ夫人は、1860年にソルトレーク盆地に移住した。1876年にブリガム・ヤング大管長によってユタ州プロボの学校の校長に選ばれたメーザー兄弟は、主の御霊によって学生が学べる場の基盤作りをゆだねられた。

奉獻式にてトーマス・S・モンソン第一副管長(中央)に同伴したドイツ・ライブチヒ伝道部のバイロン・P・ヒューズ部長(左); ドレスデンステーキのフランク・ジェンツィヒ会長; 元ベルリン地方部のハンス・シュルツ部長; 七十人のD・リー・トブラー長老とメリル・J・ペイトマン長老。 写真/ロス・エスラ・ケンデル



メーザー兄弟は、新しい教育方法論や模範的なオナーコード〔Honor Code〕(訳注—教会が運営する学校の規則)の実施、ユタ準州ならびに教会の初期の指導者研修などを通して、ブリガム・ヤング大学の発展ならびにアメリカ西部の教育に影響を及ぼし続けた。

「カール・G・メーザーがバプテスマを受けたドレスデンの町に、わたしたちは集まっています。」とモンソン副管長は奉獻の祈りの中で述べた。「わたしたちは彼の出身地であるドイツという国、そし

てザクセン州に感謝します。救い主と同様に、彼はこの地で、ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛されました。」

教会員や地元市民団体指導者を含め、350人以上が奉獻式に出席した。「同郷人であるカール・G・メーザー像の奉獻と序幕の式に出席することができ、うれしく思います。」ドレスデンステークセンターの所在地であるマイセン市の市長を務めるトマス・ポロック博士は述べた。

七十人の一員であり、ヨーロッパ中央

地域会長会会長D・リー・トブラー長老、同じく七十人の一員であり、ブリガム・ヤング大学学長メルル・J・ベイトマン長老がモンソン副管長とともに儀式に参列した。奉獻式での話で、ベイトマン長老は次のように語った。「メーザー兄弟が作成した基本的なオナーコードは今日もなお、ブリガム・ヤング大学で実施されています。わたしはカール・G・メーザーの後継者であることを誇りに思います。」

□

## カリスター長老、カザフスタン初の末日聖徒の支部を組織

7月29日、カザフスタン・アルマティー支部はこの中央アジアの国に組織された教会の最初のユニットとなり、この重要な式典には44人の教会員と友人たちが集った。

「カザフスタンでは今日多くのことが起こっています。」七十人でヨーロッパ東地域会長会会長のダグラス・L・カリスター長老は述べている。「しかし、わたしたちがここでやっていることほど重要な事柄はありません。この国の多くの人々は、今日わたしたちが行っていることを知りません。しかし、多くの人々がわたしたちを知る日が将来訪れることでしょう。」

この支部の組織は、当初会員数が20人にも満たなかった小さなグループが自然に発展し、40人を超える規模に急成長した様子を表している。

最近長老に聖任され、新たに支部長会の第二副支部長に召されたヌラン・カディルベコフ兄弟は、支部の大勢の会員の典型である。彼とアルマ夫人は、合衆国留学中に教会に入った彼の娘ゾラから教会を紹介された。支部の会員から教会について学び、以来友人や親戚数人がバプテスマを受ける助けとなっている。

カザフスタンには専任宣教師がないため、支部の会員が教会に関心のある人々を教え、フェローシップをする特権に恵まれている。

今後数週間のうちに、カディルベコフ兄弟姉妹は支部会員の最初のグループ

とともに、自分たち自身の儀式を受けるために神殿へと旅立つ。新しい召しの支持を受けた後の証で、カディルベコフ兄弟は、カリスター長老の言葉を振り返りこう述べた。「これはカザフスタンの歴史の中で実に重要な出来事です。そして主の預言者がこの地に神殿のかなめ石を据える日が来るまで、最も大切な日として今後も残り続けることでしょう。」

アルマティー支部の会員は、2000年12月19日に教会が政府から公式な認可を受けたこの国で、今後設立されるであろう数多くのユニットにあって、この支部がその最初であることを認識している。□

「チャーチニュース」(Church News)の厚意により、2001年8月11日付けの記事より掲載。



ダグラス・L・カリスター長老と、新たに組織されたアルマティー支部の支部長会。(左から) アベロエス・ウタマガムベトフ第一副支部長、ポール・B・バイパー支部長、ダグラス・L・カリスター長老、ヌラン・カディルベコフ第二副支部長、ミハイル・チエルダンツォフ幹部書記。

写真/ヨーロッパ東地域の厚意により掲載

## ポーター長老、地域幹部七十人は教会の円熟を示すと語る

ジェーソン・スウェンセン

**教**会の地域幹部七十人は各地から選ばれたグループ、すなわち事実上あらゆる国籍、あらゆる経歴を持つ人々の中から集められた忠実な人々のグループと呼ばれている。この神権の召し

が定められた1997年以降、地域幹部七十人は奉仕と献身を通して絶えず発展し続ける教会を一体化する仲立ちとなってきた。地域幹部七十人の成功は、教会が世界的に発展を遂げていることを象徴している、と七十人会長会の先任会

員の職から先日解任されたL・アルディン・ポーター長老は語っている。

「これは円熟のしるしです」とポーター長老は付け加える。「世界中に力強い神権者と家族がいるのです。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、1997年の総大会における開会の言葉の中で、地域幹部七十人の召しについて紹介した。預言者は、この時代に地域幹部として奉仕する「忠実な兄弟たち」が七十人として聖任され、七十人会長が管理する定員会に所属すると述べた。地域幹部七十人は、報酬を受けることなく自分たちの住む地域で奉仕し、現在の仕事を続け、かつ自宅で生活する。

ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、そして太平洋地域に住む地域幹部七十人は、七十人第三定員会会員に、メキシコ、中央アメリカ、そして南アメリカ在住の地域幹部七十人は第四定員会の会員、そして合衆国とカナ



ベネズエラ、カラカスの地域幹部七十人、フランシスコ・G・ギメネス長老にあいさつをするゴードン・B・ヒンクレー大管長。  
写真/ジェームズ・スウェンセン、『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

ダで生活する地域幹部七十人は第五定員会会員にそれぞれ召された。

「地域幹部は七十人として、啓示に定められているところに従い、福音を説き教え、主イエス・キリストの特別な証人となる召しを受けています」と当時ヒンクレー大管長は語った(『忠実かつ誠実に』『聖徒の道』1997年7月号、4-6参照)。

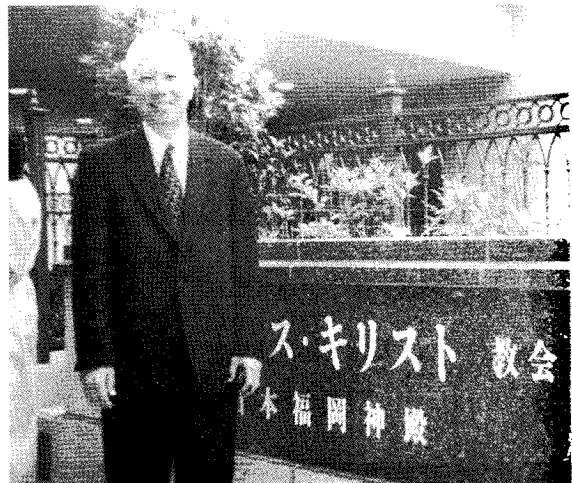
新たに召された地域幹部七十人は、それぞれの地で拡大する教会を組織し設立するために管理運営の権能を授けられた。割り当てを受けた場合、地域幹部七十人はステーキ大会を管理し、ステーキ会長会を訓練し、ステーキの新設や再組織を行い、ステーキ会長会を任命し、地域会長会で副会長として働き、伝道部を視察し、伝道部長を訓練し、その他の割り当てられた義務を果たしてきた。

「[ヒンクレー大管長から]与えられた概略はわたしたちにとって進撃命令となりました」とポーター長老は語っている。

中央幹部がこれまでと同様にステーキの組織や再組織の大半を管理する一方で、地域幹部七十人はその責務の「実質的な」分担を引き受けるとポーター長老は語っている。

8月から、中央アメリカ地域会長会と新たに組織されたアイダホ地域会長会は、すべて地域幹部七十人で構成されている。地域幹部七十人のC・スコット・グロー長老は、最近になって新しいアイダホ地域を管理するよう召された。この職に就くことにより、グロー長老は、教会が世界中で確固たる地盤の上に管理運営されている様子を目の当たりにすることができた。

「わたしは教会の至る所で見られる指



日本・福岡神楽を訪問中のゲラリー・松田長老は、現在地域幹部七十人として働いている。松田長老は今年、アジア北地域会長会第二副会長の召しを受けた。

写真/グレッグ・ヒル、『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

導の奥深さと質に深く感銘を受けました」とグロー長老は語っている。グロー長老は北アメリカ北西地域会長会でも働いた経験がある。

生粋のアイダホ人であるグロー長老は、自分やその他の地域幹部七十人は大管長会や十二使徒定員会、その他の中央幹部から、個人的な指導と、助言、そして養いを受けたと語っている。グロー長老は、七十人の中で働くことにより、援助と友情による慰めを受けたと付け加えた。

ポーター長老は、七十人第三定員会、第四定員会、第五定員会、そしてそれぞれの定員会会員の成長を目の当たりにしてきた。「人々がチャレンジにどう対処するかを見るのは、興味深い事柄です」とポーター長老は語っている。「彼らは顕著な働きを行っています。」□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、2001年7月21日付けの記事より掲載。

## 呼びかけにこたえ、大西洋を渡って次々とシオンに到着した聖徒たち

デビッド・M・W・ピカップ

「**確**かに筆紙に尽くし難い苦難を数多く受けましたが、……結局、どのような苦難に対しても、不平の言葉は一言も聞かれませんでした。」

1840年7月22日、ジョン・ムーンがまだイギリスに残っていた友人や家族にあってた手紙に書かれていたのは、このような言葉だった。これは、ジョンと41人の

うち半数以上がムーン家の人々で構成されていた教会員の一行が、アメリカ大陸沿岸に無事に到着して間もなく書いた手紙からの一節である。

これがイギリスから渡った末日聖徒の最初の移民団だった。「ブリタニア号」の旅は特に、荒波にもまれる船旅を経験したことのない質素な生活をしてきたこの貧しい人々の一行にとって長く、つらい

ものだった。彼らの多くは改宗してまだ間もなかったが、そのような彼らを待ち受けていたのは、風と波に翻弄される44日間の船旅という試練だった。一行の指導者だったジョン・ムーンは次のように回顧している。「生涯を通じてこれほどの一日を経験したことがなかった。泣き叫ぶ者、嘔吐する者があり、つば、鍋、缶や箱が縦横に転がっていた。荒

れ狂う波に翻弄されるままにわたしたちはその日を過ごした。」

病気、粗末な食事、船内の狭い寝台という悪条件に囲まれたジョン・ムーンは次のような思いに駆られたことを記している。「わたしたちに続いて来る人たちのことを考えると気の毒になる。けれども元気を出そう。このような経験を通して、強くなるのだから。シオンへの道には必ず大きな苦難が待ち受けている。」<sup>2</sup>

大西洋を越えてアメリカ大陸に次々と渡った聖徒たちの移民団は1840年のこのような一行から始まった。十二使徒定員会のヒーバー・C・キンボール長老に率いられた最初の宣教師たちは、会員たちにシオンへ集合するよう積極的に呼びかけ始めた。世紀末を迎えるまでに約4万5,000人の新しい改宗者たちがイギリスとスカンジナビアから移住した。イギリスの改宗者はほとんどが移民し、大人数となったため、約50年間にわたって教会員の過半数を占めていたのはイギリス人だった。

「ブリタニア号」に乗船した聖徒たちは、イギリスで明け渡してきたばかりの粗末な家での生活よりもさらに過酷な状況に直面することになった。羽毛のマットレスではなく、むき出しの板や箱の上で眠るしかなかった。小さな船室に閉じ込められ身動き一つできない彼らは窒息するような暑さと凍えるような寒さに次々と見舞われた。荒れた海によってぬらされた衣服を乾かすことも着替えることもできなかった。

1840年9月の移民第2団に加わった14人の教会員の中に、改宗者でイギリス伝道部の伝道部長会の一員を務めたウィリアム・クレイトンがいた。「ノースアメリカ号」に乗った彼らは一部屋の狭い船室に閉じ込められた。

ニューヨークに到着したウィリアム・クレイトンがイングランドに残してきた会員と友達に書き送った手紙を読むと、初期の聖徒たちが信仰によってこれらの苦難や不便な生活を乗り切ったことが分かる。「皆さんに別れを告げたとき、たとえだれかから聞いていたとしても、これほどの苦しみと問題に遭遇することをまったくと言ってよいほど知りませんでした。わたしたちは苦しい時期を経験し、

様々な問題に直面しました。わたしはこれほどの苦難に自分が耐えられるとは思っていませんでした。しかし、耐え忍んできた苦難によって、わたしは少しも傷つくことも落胆することはありませんでした。むしろ恵みとなったことを神に感謝しています。……」<sup>3</sup>

間もなく、イギリスの教会は移民制度を作って、移民を希望する大勢の会員たちのために船をチャーターするようになった。神権指導者たちは船旅に必要な日用品が十分であることを確認し、すべてが整然と行われるようにした。支部では毎週<sup>じゅうぶん</sup>什分の一とともに移民基金が集められた。財力のない人々がアメリカの聖徒たちに合流して、後で返済できるように、永代移民基金が後にブリガム・ヤングによって創設された。

1841年4月にイングランドでの伝道を終えたブリガム・ヤング長老、ウィルフォード・ウッドラフ長老、ジョージ・A・スミス長老は「ロチェスター号」に乗り込み130人の聖徒を率いて帰還した。この一行に加わった会員の一人であるトーマス・クエイルはこのように記している。「わたしはその船で初めてブリガム・ヤングを目にした。彼は苦難を強いられていた大勢の人々の間を歩き回っては父親のように優しく、愛のこもった言葉をかけていた。……その旅の間中ほとんどの時間、彼はわたしたちに教を説いて過ごした。……」<sup>4</sup>

トーマス・クエイルは船に乗っている間、ほとんどの人が病気になったことを回想して、次のように記した。「母の病状が悪化したため、普通船室からデッキの小さな船室に移さなければならなかった。わずかな食事を取ってもすべて戻ってしまう状態だったが、母は生き抜いた。幼いジョセフがジョン兄弟の腕の中で息を引き取った。」

教会指導者は様々な努力を払っていたが、大西洋の横断は依然として最も信仰の篤い<sup>あつ</sup>会員たちにとっても試練となっていた。ウェールズの改宗者ダン・ジョンズ大尉は後に、「シオンへの旅行ガイド」を移住者のために作成した。その中で彼はこのように忠告している。「船酔いで死ぬことはないので、心配無用

です。しかし、発熱によってベッドを離れなくなったら要注意です。発熱が原因で、亡くなった人が大勢います。いずれにしても栄養のある食物を取るようしてください。できるだけ長い時間デッキに出て、新鮮な空気を吸ってください。長い間、頻繁に目にしてきたわたしたちの経験から、これが最良の薬です。」<sup>5</sup>

船酔いで弱った人々はもっと危険な病気のえじきとなって、命を落とす場合が多く見られた。何人かの犠牲を伴うことなく航海を終えるケースはほとんどなかった。移住者がつづった日記は多くが、子どもや母親、あるいは父親の死に直面した聖徒たちの忍耐と信仰の記録となっている。

イングランドとスカンジナビアからの移民は悲喜こもごもの企てであった。祖国での抑圧された状況から脱出することはできたが、シオンへの集合を望んだ聖徒たちは、信仰のゆえに直面する危険を知らないわけではなかった。航海自体が危険であり、現代の基準から考えられないほどの状態だった。ニューヨークかニューオーリンズに到着すれば、危険な状態が過ぎ去るわけではなかった。汽船に乗っての長期の川旅は危険と無縁ではなかった。さらに、その先にはソルトレーク盆地まで大平原を横断するという苦しい旅が待っていた。1846年から1869年までの間に約4,600人の末日聖徒の開拓者がモルモン街道で道半ばにして命を失ったと考えられている。<sup>6</sup>

大義のために彼らが示した、驚くべき勇氣と信仰と忠誠心をたたえる最もふさわしい言葉は、おもにイギリスとスカンジナビア出身であるこれらの聖徒が、シオンに集合するようにとの預言者の呼びかけにこたえて、あらゆるものを犠牲にする用意ができていたということである。□

注

1. 1840年7月22日付けジョン・ムーンからの手紙、モルモン移民者索引、家族歴史資料ファイル、末日聖徒イエスキリスト教会から引用。
2. ジョン・ムーンからの手紙、同上。
3. 1840年12月10日付けウィリアム・ク

レイトンからの手紙、同上。

4. トーマス・クエイル自伝、同上。
5. ダン・ジョーンズ、「Guide to Zion」。
6. スーザン・イートン・ブラック、「I Have a Question,」*Ensign*, 1998年7月号。

デビッド・M・W・ピカップはイングランド・ブレストンステーキ、バーンリーワードの会員である。「チャーチニュース」(*Church News*)の厚意により、2001年8月4日付けの記事より掲載。

10箱程度であったと述べた。しかし間もなくステーキ会長たちから、もっと空箱を用意するように求められた。ホイーラー長老はこのように話している。「今後、空箱をさらに500個購入する必要があるかもしれません。」

「チャーチニュース」(*Church News*)の厚意により、2001年7月21日付けの記事より掲載。

## 変化をもたらす教会員

### ペルーの会員、隣人を助ける

#### ジェソン・スウェンセン

リマ周辺の教会員は最近、ペルーで起きた地震の被災者に、米、豆、缶入りミルク、そのほかの必需品など、少人数の家族が1週間過ごせる分の食糧を詰めた箱を贈った。しかし何かが出来ていなかった。

食糧の箱を受ける人々は、アンデスの国の町々を破壊した一連の地震のために、物心両面で打撃を受けている。米や豆は地震の被災者の飢えを満たすが、日々苦悩の中にいる彼らに、ほんの一瞬でも明るい気持ちになってもらうためには、何が必要なのだろうか。

ペルー・リマ・マランガステーキのセザール・フッカー第二副会長は、次のように述べた。「わたしたちのステーキには、食料品のプレゼントを受ける人々は、必需品のほかにお菓子が少し入っていたら喜ぶのではないかと考える子どもたちがいました。」そこで子どもたちは食糧の箱の中にお菓子を1,2個含めた。喜んで

らえると思ったのである。

また、大半のプレゼント箱の中には、末日聖徒の子どもたちからのメッセージが、そして「リアホナ」、モルモン書も含まれた。それぞれの箱の底には「末日聖徒イエス・キリスト教会からの贈り物」という簡単なメッセージが書かれていた。

6月23日、ペルー南部を襲ったマグニチュード8.1の地震後、時を移さず、教会の福祉事業部と南アメリカ西地域会長会は、被災者に援助の手を差し伸べた。大きな余震も続く中である。

リマは地震の被害を免れた。それでも教会員は、アレキバ、モセクア、タルカなどの町々で同国人が被害に遭ったことで、恐怖を感じていた。

ペルーの教会福祉局員のジョージ・ホイーラー長老は次のように述べた。「わたしはリマのステーキ会長などから、会員が衣料品や食糧の提供を申し出るとの電話を受けるようになりました。そこでわたしは組織的な援助活動を築くことを提案したのです。」

リマにある33のステーキの地元指導者らは、食糧の箱3,000個を地震の被災地に届ける目標を定めた。会員たちは求められた食糧の品々を地元のステーキや地区のセンターに持ち寄り、箱に詰めた。その後箱は、地震の被災者援助を受け持つ国の機関、ペルーの市民防衛局に運ばれた。

ホイーラー長老は、彼をはじめとする指導者は当初、各ステーキに期待していた寄付はそれぞれ

### 南アフリカにおける「天からの祝福」、菜園プロジェクト

南アフリカ中部の小さな町ロクストンの菜園プロジェクトは、野菜以上の収穫をもたらした。地元の子もたちは、教会員のある家族より提供された土地の一画で、自らの野菜を育てて学費を稼ぎ、家族が食を得られるよう助けることができたのである。

「子どもたちが野菜を自分と家族のために育て、また自給は利益をもたらすことを学んで責任感を身に付けていることが、この企画がもたらした利点です」と、アフリカ南東地域広報宣教師として妻のキャロリン・ジェンセン姉妹とともに奉仕しているジェラルド・W・ジェンセン長老は述べている。「彼らは末日聖徒イエス・キリスト教会についての知識[も得ています。]」

この企画はロクストンに住む教会員ロン・ロビンズ兄弟とバーバラ姉妹の夫妻により着手された。最寄りの末日聖徒の支部まで300マイル(約480キロ)以上も離れているこの地では、教会の集会は、活発会員のロディー・フレイザー家族の自宅で開かれている。最近、ロビンズ夫妻は、ヨハネズブルグよりこの地を訪問していた会員バリー・ジェーコブス兄弟とジーン・ジェーコブス姉妹の夫妻と話をする機会があった。この2組の夫婦は、学校の生徒たちが置かれている厳しい状況について話し合った。生徒たちのほとんどは、空腹のまま登校しているのである。

ロビンズ夫妻は、子どもたちの通う学校の近くに1.6ヘクタールの土地を所有している。その土地には貯水槽のある井戸が二つあったが、貯水槽に水をくみ上げる動力がなかった。夫妻は、もし電力と必要な水を供給するためのポンプ



南アフリカ、ロクストンの学校の生徒たちは、地元の教会員により提供された土地の自分たちの区画で、自分たちの食糧を育てている。写真/アフリカ南東地域会長会の厚意により掲載。

を得ることができるならば、生徒たちを助ける企画を実行しようと決心した。土地を耕作し、生徒一人一人用の小さな区画に分ける。そうすれば、子ども一人一人が自分の区画内で野菜の栽培と収穫に責任を持つことができる。

ロビンス夫妻はアフリカ南東地域会長会に連絡し、福祉宣教師のデビッド・パウチャー長老とナタリー・パウチャー姉妹の夫妻が現地を訪れた。会長会の指揮の下、プロジェクトが着手された。

地元の町に住む教会員でない人たちも、プロジェクトに携わることを切に望んだ。農夫のボブ・メンジースは電気コンポーネントを輸送し、ケーブル用の溝を掘り、さらにメーターとコントロールボックスを組み立てるための時間と機械を提供した。村の電気技師であるジョージ・アダムスは、電線とポンプを接続するための知識と労働を提供した。ベン・ブルーワーは土地を耕し、整えると申し出た。また農夫のジャン・ワイズは水をくみ上げるための発電機を提供した。そして退職しているジョアン・ネルは、子どもたちへ自分たちの区画の利用法と整備法を教える役を申し出た。

さらに、南アフリカ・ケープタウンステーク、ジョージ支部の青少年は奉仕活動として、毎年必要な種を提供していく。

ジェンセン長老は次のように記している。「区画を割り当てられた子どもたちの年齢層は7歳から12歳です。子どもたちはほうれん草、にんじん、メロン、そのほか多種類の野菜を栽培してきました。子どもたちは自分の家族が食べるために、または近所の人に売るために、雑草を抜き、水を与え、自分で育てた作物を収穫しています。子どもはそのお金を学費に充てています。この企画は天からの祝福です。」

【チャーチニュース】(Church News)の厚意により、2001年7月21日付けの記事より掲載。

## 「石が降っていました」

6月24日、フィリピンにあるリガロの教会員が礼拝行事に参加していると、雨の降る音が聞こえた。

「窓の外を見て、降っているのが石と灰だということに気づきました」とフィリ

ピン・リガロ地方部のノベルト・マグノ部長は語った。

6か月間続いた噴煙の後で、メイヨン火山はついに噴火し、広範囲に及ぶ被害をもたらした。1万3,000人が31か所の村落から直ちに避難しようとの警告を事前に受けていた。この火山噴火に先んじて、フィリピン・レガッピステークの神権指導者は、地区福祉評議会で緊急時対策計画を練るよう指導していた。教会員は全員無事だったとの説明や報告を受けている。末日聖徒の40家族が、マニラの地区福祉事務所により練られ認可された計画に基づいて避難した。福祉事務所はフィリピン赤十字社と相互調整を行いながら救援活動を実施した。

教会員はこの災害とほとんど時を同じくして、避難家族の苦しみを和らげるための慈善奉仕活動を開始した。7月4日、フィリピン・レガッピステークの教会員は、地元の集会所に結集し、何千にも及ぶ食物袋に米やいわしの缶詰を詰め込んだ。そして専任宣教師がこの食物袋を2,557件の家族に配布した。

「この作業の間、苦痛はまったく感じませんでした。喜んで参加していたからです」と宣教師の一人は語った。「でも、終わったときには、へとへとになっていました。」

「公場における奉仕という点でわたしたちの行動は、きわめて単純なものでしたが、わたしたちが手を差し伸べた人々の人生に大きな衝撃を与えました」とフィリピン・レガッピステークのノエル・ルシヨ会長は語っている。「何らかの形で、わたしたちは人々の人生に影響を与えることができました。わたしたちの教会の名前を正確に発音できない人々もいましたが、少なくともモルモンという名前は忘れないでしょう。」

【チャーチニュース】(Church News)の厚意により、2001年7月28日付けの記事より掲載。



米やその他の物資が詰まった食物袋を配布する地元の教会員から援助を受けるフィリピン市民。

写真/「チャーチニュース」(Church News)の厚意により掲載。

## タイの教会員、奉仕プロジェクトを支援

タイ・チェンマイ地方部チェンマイ支部の教会員は、6月2日、地方部の農村に住む恵まれない子どもたちのために建てられた新しい学校の運動場を清掃した。土曜日を丸一日使って、ゴミを片付け、木を切り倒し、草刈りをし、土や砂を広げ、学校の裏にある水路をきれいにした。

支部の指導者は青少年奉仕活動の提供を自発的に申し出て、学校建設後の残がいを片付け、運動場の手入れを行った。このプロジェクトを組織したホーリー・マッケイ姉妹は、奉仕プロジェクトに参加経験のある青少年がそれほど多くはなかったため、実際に何人来てくれるか心配だったと語った。この活動が行われる当日の朝、青少年のみならず、あらゆる年齢層の教会員が、40人以上やって来た。

学校建設のスポンサーとなった人々の中には、この奉仕プロジェクトから強い印象を受けた人々もいた。財団副会長であるフランク・ウィックス氏はこう述べた。

「わたしはその勤労精神に感銘を受けました。だれもが皆、すべての時間をささげて遅くまで働き続けました。すばらしい仲間意識がありました。これが奉仕のあるべき姿です。」

【チャーチニュース】(Church News)の厚意により、2001年7月28日付けの記事より掲載。

## 人道的遠征旅行

ユタ州北部の至る所から集まった教会員が、6月1日から6月11日までエチオピアに向けて出発した40人編



成の人道的奉仕遠征旅行に参加した。「エンゲージ・ナウ財団」(Engage Now Foundation, ソルトレーク・シティーにある非営利の人道的奉仕団体)の後援を受けるこのグループに参加したのは、ユタ州スプリングビル、スプリングクリーク南ステーク、スプリングクリーク第9ワードのアレックス・フェンスターメーカー兄弟とイーグルスカウトプロジェクトのコーディネーターであるユタ州ハーバー・シティー、ハーバー第1ワードのブライアン・アンダーソン兄弟である。アレックス兄弟は、カーサエララに近いデバッドバ川

に設置されたポンプ重力移動給水装置の組み立てを指導し、ブライアン兄弟は視力障害を持つ人々のために32キロ分にもおよぶ眼鏡レンズを提供した。

「だれもがレンズを欲しがりました」とブライアンは後に述べた。「眼鏡が一人一人の目にきちんと合ったと思われるまで、次から次に試着させました。唯一の問題は、十分な数の眼鏡がなかったということです。」

アレックスはエチオピアへ旅立つに先んじて、裏庭にポンプ装置の見本を作った。この装置は、川の流れによって生

じる電力によって稼働し、部品の中にもろ過器と貯水タンクがある。給水装置のおかげで、蓄水に3時間以上かかっていたのが、1時間で済むようになった。(村の女性たちは以前は水を得るために毎日デバッドバ川までの往復の道のりを歩かねばならなかった。)この給水装置は飲料水から発症する病気が原因で亡くなる乳児の死亡率を50パーセントから75パーセントも減少させる可能性を秘めている。□

【チャーチニュース】(Church News)の厚意により、2001年8月4日付けの記事より掲載。

## 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2001年12月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2001年12月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」4、5ページ「何となくいい日でしょう」を参照する。

1. 「クリスマスの歌でお話」を準備することで、子どもたちがイエスの降誕と再臨に関する預言を幾つか見つけられるよう助ける。『福音の視覚資料セット』(以下『視覚セット』)から救い主の降誕と再臨の絵を用いる。各絵の裏面に、その出来事の簡単な説明、その出来事を預言した預言者の名前、その預言が書かれている聖句をはって置く。絵を高く掲げる子どもとナレーションを務める子どもを選ぶ。それぞれの絵に適した歌を歌う。例:

- 『視覚セット』201—ニーファイ—救い主の母はナザレ出身である。(1ニーファイ11:13, 20-21)
- 『視覚セット』200—ニーファイ—その御方の名前はイエス・キリストと言われる。(2ニーファイ25:19)
- 『視覚セット』203—レーマン人サムエル—大いなる光と新しい星が現れる。(ヒラマン14:2-5)
- 『視覚セット』240—イザヤ—その御方は天の御父の御子であられる。」

(イザヤ9:6)

- 『視覚セット』238—マタイ「イエス・キリストは再び来られる。」(マタイ16:27)

2. 一人の子どもにベツレヘムでの救い主誕生の物語を話させる。イエス・キリストがつつましくお生まれになったことを強調し、それにまつわる歌を歌う。その状況と、キリストが再臨される時に起こると預言者が述べてきたことを対比する。再臨に関する聖句を子どもたちに調べさせる。事前に各聖句の要点について記した紙を用意する。(例—イザヤ65:25—地に平和が訪れる。マタイ16:27—天使たちもイエスとともに来る。マタイ24:30—イエスは栄光の雲に乗って来られる。マタイ24:36—主の来られる日を知る者はいない。1テサロニケ4:16—主はラッパの鳴り響くうちに天から下られる。教義と聖約76:108—イエスは地を訪れ、わたしたちの王となられる。教義と聖約133:25—主はその民のただ中に立ち、治められる。)救い主の絵を張り、子どもたちが聖句を見つけたら、その絵の下に聖句を記した紙をはらせる。キリストがつつましくお生まれになったことと、後に再臨される時の栄光との違いを子どもたちが理解できるよう助ける。

10人のおとめのたとえについて話す(マタイ25:1-13)。レッスンの前に、聖書に登場する明かりの絵を厚紙には

る。後で明かりに紙を入れることができるように、上部は開けておく(「わたしは、イエスさまのさいりんをしんじます」『聖の道』1995年9月号、こどものページ、10-11参照)。5人の賢いおとめが花婿の到着に備えていたように、わたしたちは救い主の再臨に備えられることを説明する。子どもたちに自分の明かりを油で満たし、救い主が再び来られる時に備えるため、今自分にできることを書かせる。そして子どもたち一人一人に、書いた紙を明かりに入れさせる。救い主の再臨に備えるために行うことは、わたしたちの生活をより幸福なものとし、いつか天の御父と暮らすためにわたしたちを備えるものであることを証する。

3. そのほかの参考資料;「レーマン人サムエル、イエス・キリストについて話す」『聖徒の道』1996年6月号、こどものページ、14-16;「キリストのたんじょうのしるし」『聖徒の道』1996年8月号、こどものページ、2-4;「イエス・キリストのたんじょうをあかしするよげんしゃたち」『聖徒の道』1997年12月号、こどものページ、8-9;「かみはよげんしゃに語られる」『聖徒の道』1998年2月号、こどものページ、4;「イエス・キリストをあかしする人たち」『リアホナ』1999年6月号、フレンド、14-9;「しゅの来られる時」『リアホナ』1999年12月号、フレンド、12-13□

## 中学校の異文化学習クラスに宣教師が招待される

**千** 葉県八千代市立勝田台中学校では、去る10月30日と11月5日、1年生の83人を対象に、地元在住の外国人を招いての異文化理解学習が行われた。外国人宣教師のいる教会の存在を知った学校から連絡があり、成田ワードと八千代ワードの4人の宣教師と東京東ステーク・広報ディレクターの池田和政兄弟が招かれた。

10月30日の授業では、あいさつの仕方を握手を通して学んだり、ゲームで大いに盛り上がり、生徒たちは宣教師たち手作りのクッキーも味わった。公開研究会になっていた11月5日の授業では、関東各地の教育者が宣教師の教えるクラスを見学した。アメリカ文化としてのハロウィーンが紹介され、仮装をして迎えた生徒たちは、ハロウィーンのビデオを見たり、実際に教室を家に見立てて、

お菓子をもらったりする体験を楽しんだ。最後に宣教師たちから家族の写真が披露され、生徒たちとさらに親交が深められた。宣教師の明るさ、巧みな日本語、礼儀正しい姿に感銘を受けた生徒たちが、習った英語を使いながら校外まで見送り別れを惜しむ場面もあった。この学習後、宣教師が町で出会った生徒たちに声をかけられたり、任期を終えて帰国する直前の宣教師が給食に招待されての送別会も開かれたりした。

プログラムを担当した教師は、今回の宣教師との出会いに感謝し、「教会の持っているものはすばらしい。皆さんとお知り合いになれてほんとうによかった。子どもたちのこれからの3年間と一緒に見守るべく、このカリキュラムの運営に協力していただきたい。また、今後はもっと教会と近い関係でありたいと思いま



す」と述べた。池田兄弟は「クラスの中で宣教師たちの生活、使命、知恵の言葉などについて話す機会があり、少なくとも83人の若い男性・女性そして、多くの先生方に『末日聖徒イエス・キリスト教会』の存在を知らしめ、良い印象を与えることができました。将来彼らがこの福音に触れるとき、きっと思い出とともに心を開く契機となるでしょう。アイリング長老のビジョンである『近い将来、人々がこの教会の教えを聞くために大勢やって来る』(リアホナ)2001年4月号チャーチ・ニュース12参照)ための礎は着実に築かれつつあります」と語った。□

## わが家の「雨の日だって楽しいよ！」 ～岸家族、親子総勢12人の「幸せ探し」～

熊本ステーク/坪井ワード

**岸**家の朝は早い。午前4時30分、父親の岸英治兄弟は新聞配達のために家を出る。5時30分には、母親の信子姉妹の運転する車と長男の英智君のオートバイとで、早朝セミナーに向け教会へ出発。子どもたちが教会に着く6時ごろ、英治兄弟は帰宅して会社へ行く用意。やがてセミナーが終わり、英智君はオートバイで学校へ、定時制高校へ通う次男の天童君は仕事へ、長女の麗花さんは母親の車で帰宅してから学校へ向かう。

皆がそれぞれ出かけてから、母親の信子姉妹はせっせと家事に取り組む。

そして昼過ぎには幼い子どもたちから帰宅。午後3時30分、長女の麗花さんは夕刊の配達に、近所の新聞集配所へ出かける。長男の英智君も学校の後はアルバイト。さらに麗花さんは夕食後、午後8時から9時30分まで、近くの鮮魚店の後片付けのアルバイト。

午後10時を回ったところ、夜学が終わった天童君が帰宅し、家族が全員そろうことになる。そして就寝。数時間後には岸家の早い朝が再びやって来る。

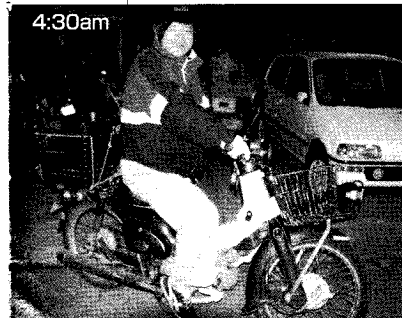
### 「ないのはお金くらいだね」

父親の英治兄弟は、忙しい一日を振

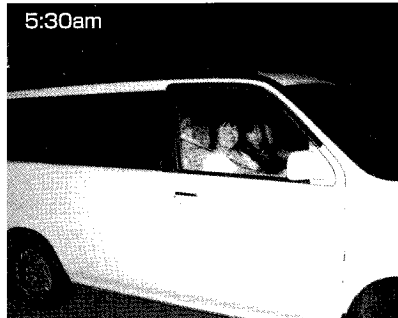
り返りながらも、「昔はどこの家でもやっていた普通のこと、今は普通ではなくなっているだけです」とあっさり言う。また「厳格な家庭内のルールは特にありません」と語るが、岸家の子どもたちはみんなよく働く。それぞれが自分のできることをして互いに助け合うのが長年の習慣となっている。

六男三女の子どもたちに囲まれて経済的には大変だが、衣食住に事欠かず、家の中は笑い声でいっぱい。「このうちの中に、大切なものは何でも揃っている。ないのはお金くらいものだよね!」と母親の信子姉妹は笑う。むしろ必要に迫

4:30am



5:30am



10:00am



4:00pm



られて働くことで、お金では買えないものが得られている。一致すること、助け合うこと、身をもって労働の価値を知ること……。

### 「祝日がいっぱい」

岸家には毎月、それぞれの子どもの誕生日の日にちを「自分の日」とするユニークな家族の伝統がある。3月9日生まれの麗花さんは毎月9日が「麗花の日」、7月19日生まれの息吹君は毎月19日が「息吹の日」という具合で、その日はちょっとドライブに行ったり外食したりと、



今日は「大我の日」。  
日向君(左)も特別参加。

父親が母親をしばし独占して過ごすことができるのである。親は常に平等に接していても、子どもたちにとっては時に親を独占したいという押さえ難い欲求がある。その思いを満たしてあげようと始まったこの行事はことのほか子どもたちに好評で、もう5年も続いている。ほかにも夫婦だけで出かける日など、家庭内のイベントは盛りだくさん。最初の3人までは大変だったが、それ以降は家族で子育てを楽しめるようになった、と信子姉妹は述懐する。「どうせやるなら楽しく」が姉妹のモットーである。

### 教えをそのまま体現することの力

英治兄弟は、長年の子育ての経験と穏やかな性格ゆえ、自然と子どもたちに対する愛情がにじみ出てくる。しかし仕事を終えて疲れ切った体でも、気を遣って笑顔を決やさず優しく接する「努力」もしている。「教会の指導者の勧告に従って善い夫、善い父になることはとても大変なことです。努力が必要です。しかし、親の姿を見て成長する子どもたちが、将来良い家庭を築くことを思えば、勧告に従うよう努力するのは大切なことです。」英治兄弟は「善い夫、善い父」に真正面

から本気で取り組んでいるのである。

そんな英治兄弟を信子姉妹は次のように表現する。「夫はまるで初等協会の子どものようです。子どもはそれほど多くのことを理解しません。たとえば大人が10を理解できるところを、子どもは二つしか理解しない。けれど子どもは、その二つをしっかりと守ろうとします。夫はそんな幼子<sup>おきなご</sup>のように、主の教えや指導者の勧告に対して真正直に熱心に努力する人なんです。理屈っぽいところや、子どもにも原則を教え込もうといったところはありません。けれど、一緒にいるだけで、とても自然に、自分の過ちを素直に認め反省させてくれるような雰囲気のある人です。」会社から帰っても夕飯ができていないとき、信子姉妹の帰宅が遅くなったとき、英治兄弟は責めるのとは正反対の愛情あふれる言葉をかけてくる。

あるとき、幼い弟が姉の大切な工作に穴を開けた。やっていないと強情に言い張るその子に英治兄弟は「そうか！ してないのか！ お父さんは信じるよ」。思わぬ返事に意外な顔付きの子どもとしばらく優しく話し続けた後、おもむろに問いかける。「(うそをつかれたら)、お父さんは、どんな気持ちになると思う?」「……おこった気持ち、でしょ」「違うよ、おこった気持ちじゃないよ、悲しい気持ちだよ」途端に子どもの目から涙がこぼれ落ちた。「お父さん、(ほくが)したの……あやまってくる!」子どもははじかれたように駆け出したという。

子どもの「言葉」を信じるのではなく、子ども自身の人格を信じる。愛の原則をそのまま体現した一つの行いは10の説教よりも効果的だ。

アメリカ人の友人から贈られた、家族とベットの名前が書かれた手製の壁掛け。「み恵み数えよ」と記された言葉は岸家のモットーそのものだ。今回は新しい名前も加わる。

### 子どもを褒める、しっかり見守る

岸兄弟姉妹は子どもたちが自分で選んだ道を尊重するようにも心がけている。その選びに対して、あまり細かいことは言わない。それぞれの人格を大切

### ●英智 (ひでとも/長男/17歳)

早朝セミナーは「1年目は」無遅刻無欠席だったと誇る。「長男は大変?」と意見を求められるときに答えを見つづけるのがいちばん大変だという。最近はおトバイのことで頭がいっぱいらしい。名前は「神の栄光は英智」(教義と聖約93:36)の聖句に由来する。

●息吹  
将来とい  
作が  
いる  
が得  
感じ

### ●愛実 (まなみ/次女/12歳)

「宇士の町探検クラブ」に所属する明るい小学校6年生。現在のお母さんにとってはいちばん役立つ「子守りのスペシャリスト」。名前には女性としての特質と花が咲き実が結ばれるさまが表されている。



●おばあちゃん  
(信子姉妹の  
お母さん)

### ●種恵 (しゅえ/三女/7歳)

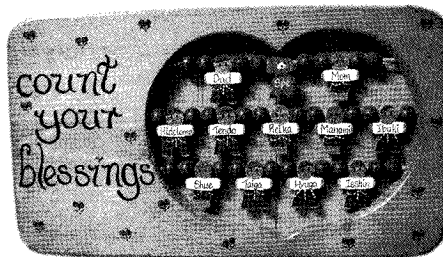
花が咲き実が結ばれ種ができる、その豊かな恵みが名前にも表現されている。小さいながらも家の仕事を頑張って手伝っている。笑顔を見せる度に母親の信子姉妹は「我が家のお姫様」と優しく抱き締める。

### ●日向 (ひゅうが/五男/4歳)

最近初等協会の発表が終わったが、教会へ向かう車の中では随分と歌の練習に励んでいた。日の栄えへ向かって歩む人になってほしいという願いを込めて命名。

### ●英治 (えいじ/父親/46歳)

「妻は教えることはとても上手ですが、子どもを諭すのはわたしの方が上手ですよ」と笑顔で言う。教会の教えは家庭に欠かせないと語る家族にとっては頼もしく優しいお父さんだが、時には「最近はずっと面白にあげられているんですよ」と料理を作りながら一人つぶやくこともある。



信子姉妹はこれまで、エッセイや童話の作品で様々な賞を受賞してきた。子育ての経験を生き生きと語る講演も好評。

この夏には、これまで書きためた家族に関するエッセイを集大成し、念願の本を出版した。

●天童 (てんどう/次男/16歳)

三男以下の子どもたちに「兄弟の中で今遊べるとしたらだれと遊んでもらいたい？」と尋ねたところ、圧倒的に「てんちゃん」という答えが多かった。仕事と勉強に忙しく励む高校1年生。天のお父様から頂いた子どもという意味を込めて命名された。

●麗花 (れいか/長女/14歳)

「善い娘です」と母親が太鼓判を押す頑張り屋さん。きょうだいでいる弟のために新生児用の布団カバーを製作中。名前は「神様が造られたいちばん美しい花は女性です」という言葉に由来する。

にし、良いところは褒め、温かく見守っている。「(最近)あまり小うるさいことは言わなくてすむようになりました」と英治兄弟は笑うが、「子どもたちが教会の集会を優先させてくれることはとても誇りに思っています」と付け加える。セミナーとインスティテュートはしっかり学んでほしいと強く願っているが、子どもたちは言われなくともそこで学んだ教生活を生活に反映させている。

以前、「宣教師になる備え」をテーマに家庭の夕べを行ったとき、「自転車に乗る」



岸家の「駐輪場」。

という課題にみんなで取り組んだ。自宅から教会までの道のりを2時間かけて自転車挑戦してみた。当時中学生だった長男の英智君と次男の天童君は、その後の1年間、1時間かけて教会へ自転車通い続けたという。さらに、天童君と次女の愛美ちゃんは歩いて帰ることに挑戦した。4時間もかかった。信子姉妹は手放しで褒めた。「『すごいね!』と言われると、人は頑張ることができるんですよ。」子育ての秘訣の一つがそこにある。

スキンシップが大好き

子どもに優しくすぎると言われる英治兄弟。「だっこして」と言われると、すぐに子どもを抱きかかえる。これは9人の子どもを育ててきた経験に裏打ちされた知恵だ。「子どもはだっこをせがんでくれますが、その都度抱きかかえてあげると、意外にもすぐに降りようとします。もし親があまり子どもを抱いてやらないと、

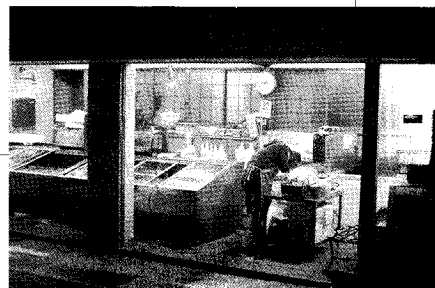
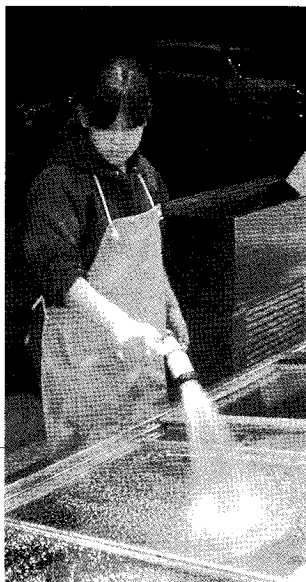


子どもはその機会が巡って来たとき、なかなか親の腕の中から離れようとしません。親の都合や親のわがままで子どもに接することはとても多く、かえって親が作った原因から来る子どもの行動にイライラすることもあるのではないのでしょうか。」岸家の子どもたちは母親の信子姉妹のそばに来ては、自然に抱きつき、子どもたちが重なるように抱きついてはすぐに離れて行く。何度も何度も子どもた

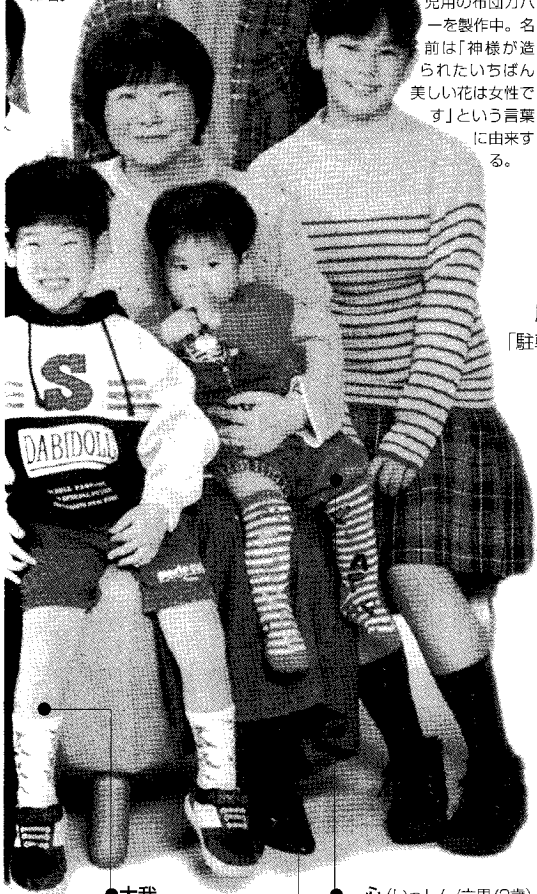
午後8時近くになったが、鮮魚店で後片付けのアルバイトをしている麗花さん(もちろん彼女は親からの小遣いはもらっていない)が出かけるのをためらい始めた。「仕事がつらいから？」と尋ねると、「働くことはつらくない。でも一人で働くのは寂しく感じる時もある」との答え。

温かな家族の雰囲気から一人だけ抜けて出かけるの

閉店後の鮮魚店で後片付けのアルバイトをする長女の麗花さん。夕刊の配達もこのアルバイトも出産間近の母親の信子姉妹の代理として始めた仕事だが、現在はすっかり麗花さんの仕事として定着している。



(いぶき/三男/10歳) については「悩み中」う息吹君。工夫や工夫大好きで、空箱でいるなものを作るのが意。神の息吹を常にられる人であるように願って命名。



●大我

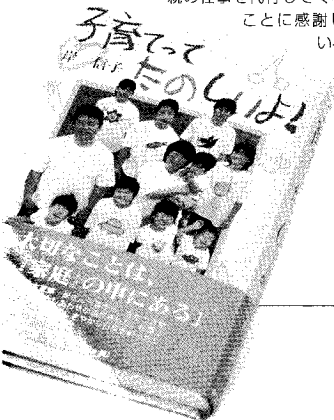
(たいが/四男/5歳) 大きくなったらかっていい大工さんになりたいと夢を語る。「人の価値が神の目に大いなるものであること」(教義と聖約18:10)への思いを込めて命名。

●一心 (いっしん/六男/2歳)

信子姉妹が一心君を授かったとき、家族の心がさらに一つにまとまったと感じた経験と、「彼らが完全に一つとなる」(ヨハネ17:23)ことを願って命名。家族全員の人気者で、自由気ままに振る舞いながら笑顔をもたらしてくれる存在である。

●信子 (のぶこ/母親/45歳)

夫と一緒にいるときがいちばん幸せを感じるという。時間が許すかぎり夫婦で出かけては二人だけの時間を過ごすようにしている。夫婦がそろって教会へ行くことはとても大切なことだと語る。最近頻りに産休になるので、家族全員が母親の仕事を手伝ってくれることに感謝している。





夕飯の準備。「努力」する「孝行」は「自願」のお父さん。

ちは触れに来るが、信子姉妹はまったく嫌な顔をしない。

### 「不動」の幸せ探し

信子姉妹は母親として次のように話す。「世の中には神様の教えに反することがあふれています。10年前に不道徳だったことが、今は社会で受け入れられて普通になっています。現在、不道徳と言われていることでも、10年後には社会に溶け込んでしまうかもしれません。しかし、教会で教えられている標準は、

はっきりとした物差しになっています。その物差しに従っていれば間違えることはありません。教会の中には、世の中の不道徳に左右されない不動のものがあります。」英治兄弟と信子姉妹は「教会で福音を学ばなければ子どもたちを正しく導くことは不可能でした」と確信を込めて語る。

2001年11月1日。岸家には10番目の子どもとなる七男が誕生した。そして信子姉妹が語ったように、どんな試練に遭っても揺るぎない心を持った子どもに育ってほしいという願いが込められ「不動」君と命名された。

「幸福って何だろう？」と信子姉妹は自作のエッセイの中で問いかける。

「“健康”かな？ いや、違う。病気や身体の不自由な人が、みんな不幸ってわけじゃない。

“お金”？ それも違う。どんなにお金があったとしても、幸せじゃない人だって、たくさんいる。

“子ども”？ それも違う。子どもがい

なくても幸福に暮らしている夫婦を、私は何組も知っている。

“仕事”？ いや違う。仕事で成功した人が幸せとは限らないし、失業した人が不幸とも限らない。

じゃあ、幸福って？

『雨の日だって楽しいよ』と、言えることかも知れないな。

環境に左右されず、状況に左右されず、どんな中からでも、楽しさを見つけだす力…。』（『子育てってたのしいよ！』222）

一家は今どき珍しい「大家族」としてメディアに紹介されることも多い。しかし岸家族が人々を惹きつけるのは、ただ大家族であるからではない。どんな環境や状況にあっても「幸せ探し」が上手で、接する人を温かい気持ちにさせてくれる家族だからだ。「幸せ探し」は福音の本質でもある。不道徳や不安に満ちた時代にあって、それに左右されず「不動」に幸せであり続ける岸家族の生きざまは、これからますます世の人の目に輝いて見えることだろう。□

# 写真で見える 日本教会 最終回 10年史

## 日本のメディアと末日聖徒

●明治5年(1872年)3月29日の『東京日日新聞』(発刊の系譜は後の毎日新聞へとつながる)の記念すべき創刊号第一面には、「米国塩湖ヨリ朋友二送ル」という見出しでソルトレーク市内の挿し絵とともに、岩倉使節団からの書簡の抜粋が掲載されている。記事中には「モルモン宗」や「開宗の導師ヨング」(ヤング大管長)という表記が見られ、日本国指導者から見た教会との出会いや印象について報じられている。その後、日本のメディアで教会について報じられることは、明治34年(1901年)8月にヒーバー・J・グラントと3人の宣教師が来日するまで皆無に等しかった。

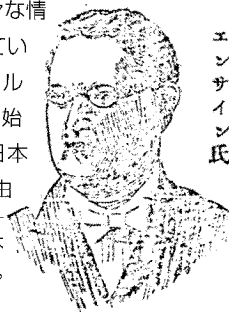
●明治34年8月16日の『時事新報』は「モ



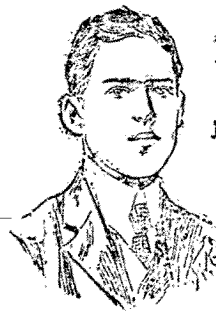
『東京日日新聞』の創刊号(左)に掲載されたソルトレーク(鹽湖)の挿し絵。左側にテンプルスクウェア、後方にワサッチ山脈が描かれている。

ルモン宗の由来」と題してロレンソ・スノー大管長とソルトレーク神殿の挿し絵を掲載しながら、教会の歴史について解説している。その中ではすでに「モルモン経」や「インダウメント」(エンダウメント)という言葉まで登場する。最初の4人の宣教師が横浜に到着した直後にもかかわらず、新聞社は教会に対する様々な情報を持ち合わせていた。もちろん『モルモン経』の翻訳も始まっておらず、日本語訳は存在する由

もなかった。日本に神殿が建設される80年前にもかかわらず、その儀式についてまで新聞で報じていたのである。また別面で『時事新報』は4人の宣教師の似顔絵を掲載し、ヒーバー・J・グラントが十二使徒から伊藤博文侯への紹



エルザ・ウィガム氏

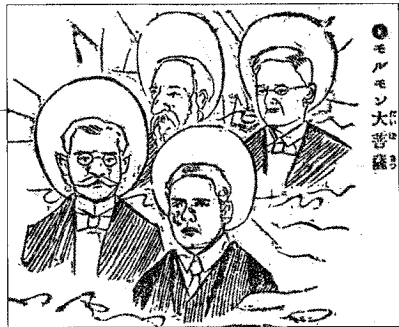
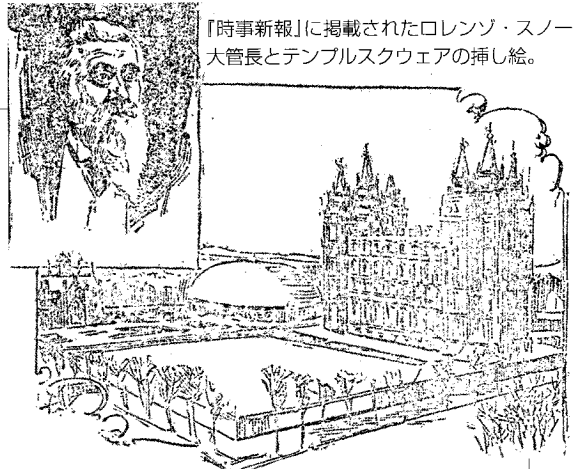


エルザ・ウィガム氏



明治34年8月16日付の『時事新報』には最初の4人の宣教師の似顔絵と談話が掲載された。

『時事新報』に掲載されたロレンソ・スノー  
大管長とテンブルスクウェアの挿し絵。



明治34年8月19日付『二六新報』に掲載された漫画。「モルモン大菩薩」と題され、後光を背負った最初の4人の宣教師たちの到来を、多くの妻妾を引き連れた日本人紳士らが拜んで迎えている。神聖な結婚制度であった一夫多妻を、日本の権力者が妾を持つ習慣と同一視しているが、これが当時の一般的な認識であった。



当時の英字新聞は、宣教師に対して日本国内の新聞が報じた様子や日本の新聞社への対応について報じているものが多い。右上は、上の漫画に対するThe Japan Weekly Mail紙のコメント。

### THE MORMON MISSION.

Tuesday, Aug. 20.

The Niroku Shinbun has an amusing cartoon about the coming of a Mormon Mission to Japan. It represents the "Apostle" and his followers grouped in one picture as saints with halos round their heads, and in an adjoining medallion three prominent Japanese gentlemen, celebrated for the ardour of their sentiments towards the fair sex, are shown eagerly advancing to welcome the advocates of polygamy. A vast

ジョセフ・スミスの名前も、教会についても、「良くも悪くも」今後も様々な形で報道される機会は増えていくことだろう。そうした報道に対し教会員として心を痛めるときもあるが、最初の4人の宣教師に直接会って、真実を確かめたいと感じた人々のように、真理を求める人々にとっては、どのような内容の報道であっても教会の名称や活動が報じられることは益となるに違いない。そして、あらゆるメディアによって広く報じられるものは、それが好意的なものであれ、批判的なものであれ、その後ろには主の深い御心が働いていた、と後世になって判断されることであらう。〔終〕□

介状を携えて来ており、近日中に訪問する予定であると記している(実際には訪問は実現しなかった)。

●明治34年9月5日に『毎日新聞』は「モルモン教を評す」という記事の連載を開始した。一般に情報が少ない時代のように思われるが、記事中には多少の誤りはあるものの、教会の歴史や組織に関する記事は、現在の新聞記事でも見られないほどの確かな内容かつ豊富な情報量で構成されている。批判的な論調の中にも、「執事」「教師」「祭司」「監督」等の現在でも使われている訳語が使用されているほか、教会名にも「末日聖徒」という表記が使用されている。当時の新聞社が掲載した教会の訳語は、後に「モルモン経」や多くの出版物の翻訳に

（七十四百番號番活地）

モルモン教徒グラントの一行、横濱に來り、將に内地に入りて、布教に從事せんとす。其等、現今内地に居住して、其方策を考へ、其準備を整へ、つゝあり、モルモン之名は、其地土に於ける出来事と、其含衆國政

毎日新聞  
モルモン教を評す(一)

携わったアルマ・O・テラーを助けた日本人たちに影響を与えていたと思われる。

●当時の新聞の社説では伝道活動を開始する宣教師たちへの誤解や批判的な論調も強く、読者欄では一般読者からの嘲笑的な投稿まで掲載されている。どんなに辛辣な記事が掲載されても、日本語を読めなかった宣教師たちは、その真意を知ることがなかったかもしれない。毎日のように批判的な記事が掲載される中、多くの日本人は4人の宣教師の来日に偏見を抱いた。しかし、そのような誤報にもかかわらず、宣教師のもとを訪れる人は増えていった。そのほとんどは好奇心からであったが、中には後にバプテスマを受けて改宗する人々や、宣教師の働きに協力する人々も含まれていた。新聞に掲載された嘲笑的な記事であっても、真理を求めていた人々にとっては、真実を確かめたいという欲求を奮い立たせるものに過ぎなかった。

●2002年2月8日に開幕するソルトレーク・オリンピックが近づくにつれ、テレビ、新聞、雑誌、ラジオ、インターネットなどの様々な媒体で教会に対する報道が増えている。好意的な内容のものもあれば、事実が歪曲されたものや嘲笑的な内容のものまであふれている。かつて預言されたように、

左—明治34年(1901年)8月27日付の『毎日新聞』に掲載された読者の投書。モルモンとモルモットをかけて、相当辛辣な調子で皮肉っている。最初の宣教師たちに吹き付けた逆風の強さがうかがえる。

讀者の領土

モルモン宗は之をモルモットと改め、如何にモルモットに似て、非常に繁殖力の強い動物であるか、一夫一婦が人類自然の道を以て善を旨とするが如きは到底畜养的たるを免れない。斯る教義は人に向つて説くとは、馬鹿馬鹿しい。今日彼等グラント等の無稽の言を、功名を以て此間に紹介するに、吾人は其の愚を、此際大いに正義の聲を高めて、彼等と闘争して進歩の玉(龍魂)を

02冬季五輪あと1年

祭典はイメージ変える「踏み台」

ソルトレーク・オリンピックの開幕を前に、ソルトレーク・オリンピックの祭典は、イメージ変える「踏み台」...

脱「宗教の都市」

ソルトレーク・オリンピックの開幕を前に、ソルトレーク・オリンピックの祭典は、イメージ変える「踏み台」...

『毎日新聞』2001年2月3日付。100年後のソルトレークはオリンピックで知られることになる。

# 専任宣教師

2001年10月(264期生)7人・海外2人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



いのうえ てるや  
**井上 徹哉**  
福岡伝道部  
大阪堺ステーク  
岩出支部



かとう ゆき恵  
**加藤 幸恵**  
名古屋西ステーク  
犬山ワード



せんば のりひこ  
**仙波 範彦**  
東京北伝道部  
熊本ステーク  
清水ワード



たかた かつゆき  
**高田 克之**  
仙台伝道部  
岡山ステーク  
倉敷ワード



つき のよしや  
**月野 義也**  
札幌伝道部  
山口地方部  
防府支部



にしむら きょうこ  
**西村 京子**  
福岡伝道部  
京都ステーク  
下鴨ワード



あづま じりょう  
**東 倜二郎**  
札幌伝道部  
熊本ステーク  
坪井ワード



にしめ えりか  
**西銘 恵利香**  
ハワイ・ホノルル伝道部  
那覇ステーク  
与那原ワード



まつもと なおこ  
**松本 尚子**  
ユタ州リトルレークシティ  
デンブルスクエア伝道部  
熊本ステーク  
坪井ワード

## 役員の変動

2001年10月11日から2001年11月10日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 日本広島伝道部  
第1副部長: 大嶋 誠  
第2副部長: 武田 智幸
- 仙台ステーク米沢支部  
支部長: 渡辺 正歳
- 日本大阪北ステーク  
第1副会長: 中西 和彦  
第2副会長: 高木 信二
- 東京ステーク所沢ワード  
監督: 石母田 春夫
- 福岡ステーク藤崎ワード  
監督: 相浦 真範
- 大阪堺ステーク堺ワード  
監督: 杉本 恵洋

## 皆さんの情報をご提供ください

◎あなたや友人の経験、また地域のニュースなど、全国の読者に紹介したい有意義な情報をお寄せください。

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会『リアホナ』編集室

TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275  
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、その他商品に関するお問い合わせは——教会配送センター

TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

## 2002年度「クモラの丘霊園」 分譲のお知らせ

「クモラの丘霊園」分譲の来年度募集を2002年12月31日まで行います。永代使用料は毎年値上がりします。分譲ご希望の方は、早目にお申し込みください。

1. 墓地永代使用料 一区画 336,000円  
支払方法 一括または分割払い。分割払いの場合は、初回金5,600円、以降毎月5,600円59回払いの無利子分割払いとなります。
2. 墓地管理料 年間 4,200円(初回金とともに1年分を前納し、以降毎年10月末日までに支払うものとします。)
3. お申込方法 以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出し、初回金と管理料をお支払いください。  
①クモラの丘霊園申込書  
②住民票  
③クモラの丘霊園永代使用契約書 2通  
④銀行自動振替手続き書類
4. 今年度申し込み期限 2002年1月1日から2002年12月31日まで
5. 墓所の指定 申込書類受領確認の後、順番に行います。
6. お問い合わせ 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30  
末日聖徒イエス・キリスト教会管理本部内  
クモラの丘霊園事務局  
電話 03(3440)2351(代)

### 住所変更届出のお願い

住所変更の届け出がないため、連絡が取れない方が増えています。手続きに必要ですので、住所を変更された方は**住民票の写し(本籍変更の場合は戸籍謄本)**、**霊園使用承認証**を速やかに当方へお送り下さい。また**郵便番号**、**電話番号**、**新所属ユニット名**などの変更もお知らせください。



所在地: 埼玉県入間郡毛呂山町 長瀬1313 武蔵野霊園内  
(池袋駅から東武東上線・越生線で約1時間、武州長瀬駅下車、徒歩7分)

# 『リアホナ』 2001年12月号 の活用法

## レッスンのためのアイデア

■「贈り物のないクリスマス」2ページ——ジェームズ・E・ファウスト副管長は、物質的な贈り物と心を感じる贈り物の違いについて説明しています。今年のクリスマス、あなたは救い主にどのような贈り物をすることができますか。家族や友人には何を贈ることができますか。主がわたしたちに差し出しておられる、真の喜びと幸福をもたらす贈り物にはどのようなものがあるでしょうか。

■「<sup>あがな</sup>贖いの犠牲——<sup>あかし</sup>末日の預言者の証」8ページ——末日の預言者たちの証の引用を用いて、救い主が下さった偉大な贈り物、すなわち<sup>しよくざい</sup>贖罪について教えてください。

■「子どもに<sup>じゅうぶん</sup>什分の一を納めることを教える」36ページ——あなたが子どもたちに什分の一を納めるという戒めの大切さを教える際に、最も役立つアイデアはどれかを考えてください。これらのアイデアを特別な家庭の夕べで用い、家族を什分の一の年末面接に備えさせます。

■「毎日がクリスマス」フレンド14ページ——F・エンツィオ・ブッシュ長老が子どものころ、クリスマスの時期に感じた特別な精神について読んでください。福音に従って生活すると、1年中毎日クリスマスの精神を感じるうえでどのような助けとなるでしょうか。

フォトイラストレーション/クレーグ・ダイヤモンド

## クリスマスを祝うためのアイデア

あなたの家族またはワード/支部は、救い主を中心としたクリスマスを祝うためにどんなことをしていますか。あなたのアイデア、それにまつわる話、写真、経験をChristmas Celebration Ideas, Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT84150-3223, USAへ、またはEメールでCUR-Liahona-IMag@ldschurch.orgまでお送りください。あなたの氏名、住所、電話番号、ステーキ/地方部、ワード/支部を明記してください。

## 今月号に採り上げられている項目

愛	2
証	F12
イエス・キリスト	2, 8, 25, F2, F4, F8, F11, F12, F16
祈り	33
癒し	28, F11
永遠の視野	18, 34
贈り物	2, 24, F2
教える	36, 48
改宗	28, 34, F14
家族関係	18
家庭の夕べ	48
家庭訪問	33
逆境	38
クリスマス	2, 24, 28, 34, F2, F6, F8, F10, F14, F16
賢明であること	18
子ども	28
再臨	F4
自制	25
什分の一	36, 38
贖罪	8
初等協会	F4
信仰	38, F14
神殿・神殿活動	33
新約聖書ものがたり	F11, F12
世界に広がる教会	38
備え	F4
奉仕	28
ホームティーチング	7
模範	36
優先順位	18
預言者	8, F4
霊性	18



